

# 高等学校 生徒指導 研修ガイドブック



神奈川県立総合教育センター

平成25年5月(改訂版)



## ま え が き

学校における生徒指導上の問題は、日常の生徒指導上の問題はもとより、不登校やいじめ、暴力行為など極めて深刻で多岐にわたるものになっています。社会全体が急速に変化していく中で様々な課題が生じ、生徒の意識と行動にも大きな影響を与えています。このような状況において、生徒指導は、学校がその教育目標を達成するための重要な機能の一つであり、生徒の人格形成を図る上で大きな役割を担っています。

生徒指導とは、問題行動等が発生した時の対応だけでなく、それ以前の予防的指導や授業、特別活動、部活動等、学校生活全体を通して、生徒を成長させるための開発的指導も含まれます。

また、かながわの支援教育の考え方に基づき問題行動等への対応と教育相談を別々のものと考えず、一つのものとして考えることにより生徒指導がさらに効果的なものになります。

これからの生徒指導は、一部の担当者だけに任せるのではなく、学校全体で教員一人ひとりが生徒指導についての知識やスキルを身に付け、資質・指導力を向上させていくことが求められます。

大量採用の時代を迎え、各学校では若い教員が増えてきています。こうした中、総合教育センターにおける初任者研修の実施とともに、各学校の現状や目指す生徒像に即した校内研修の実施がいわば車の両輪となって計画的・組織的な人材育成を進めていくことが必要です。そこで、釜利谷高校、橋本高校、藤沢工科高校の3校に生徒指導研修プログラム開発モデル校として、校内研修の実践をしていただきました。

校内研修の活性化のために、本書をご活用いただき、学校全体で組織として、生徒指導力を高め、生徒の健全な成長、社会的自立、自己実現につながることを期待します。

平成25年3月

神奈川県立総合教育センター所長  
下山田 伸一郎

◇本冊子の活用のしかた

◇第1章 研修のための基礎編

I	生徒指導の重要性	2
II	自己指導能力とは	3
III	生徒指導の課題	6
IV	「かながわの支援教育」	7
V	生徒指導の体制	9
VI	生徒指導に係る研修の必要性	10

◇第2章 総合教育センターにおける研修

総 論

	神奈川の支援教育を基盤とした生徒指導の在り方	14
I	教師と生徒の信頼関係の確立	
	授業における生徒との信頼関係づくりの工夫	16
	保護者との連携と対応	20
	ホームルーム経営の基礎	24
II	生徒相互の好ましい人間関係の育成	
	生徒同士の間関係づくり	28
III	生徒理解の深化	
	生徒指導グループとの連携	32
	生徒理解のための対話	36
	チーム支援とケース会議	40
IV	主体的な判断、行動により自己を生かす生徒の育成	
	生徒理解とチームアプローチ	44

◇第3章 校内研修実践

I	釜利谷高校の取組み	50
II	橋本高校の取組み	60
III	藤沢工科高校の取組み	70

◇第4章 資料編

# 本冊子の活用のしかた

生徒指導は学校の教育活動全体を通じ、管理職のリーダーシップの下、全教職員がそれぞれの役割を担い、学校全体で組織的・計画的に行うことが大切です。そのためには、校内研修等の充実を図り、生徒指導に関する資料などを確認することが大切です。

生徒指導に関する研修が効果的になるよう、本冊子を活用してください。

## 主な活用のしかた

たとえば、こんな研修で活用できます。

○今日の生徒指導に対する考え方や指導の在り方の変化を捉え、教育課題に沿った指導をするための研修

○不登校やいじめ、体罰など、今日の学校の様々な課題に対応して、効果的な生徒指導をするための研修

○管理職から若手教員まで、役割ごとに捉えておきたい生徒指導について理解を深めるための研修

(例)

若手教員・・・生徒指導に関する基本的な理論や知識を習得  
生徒の実態に沿った、実践的指導法の把握

中堅教員、ベテラン教員

・・・人材育成のための総括

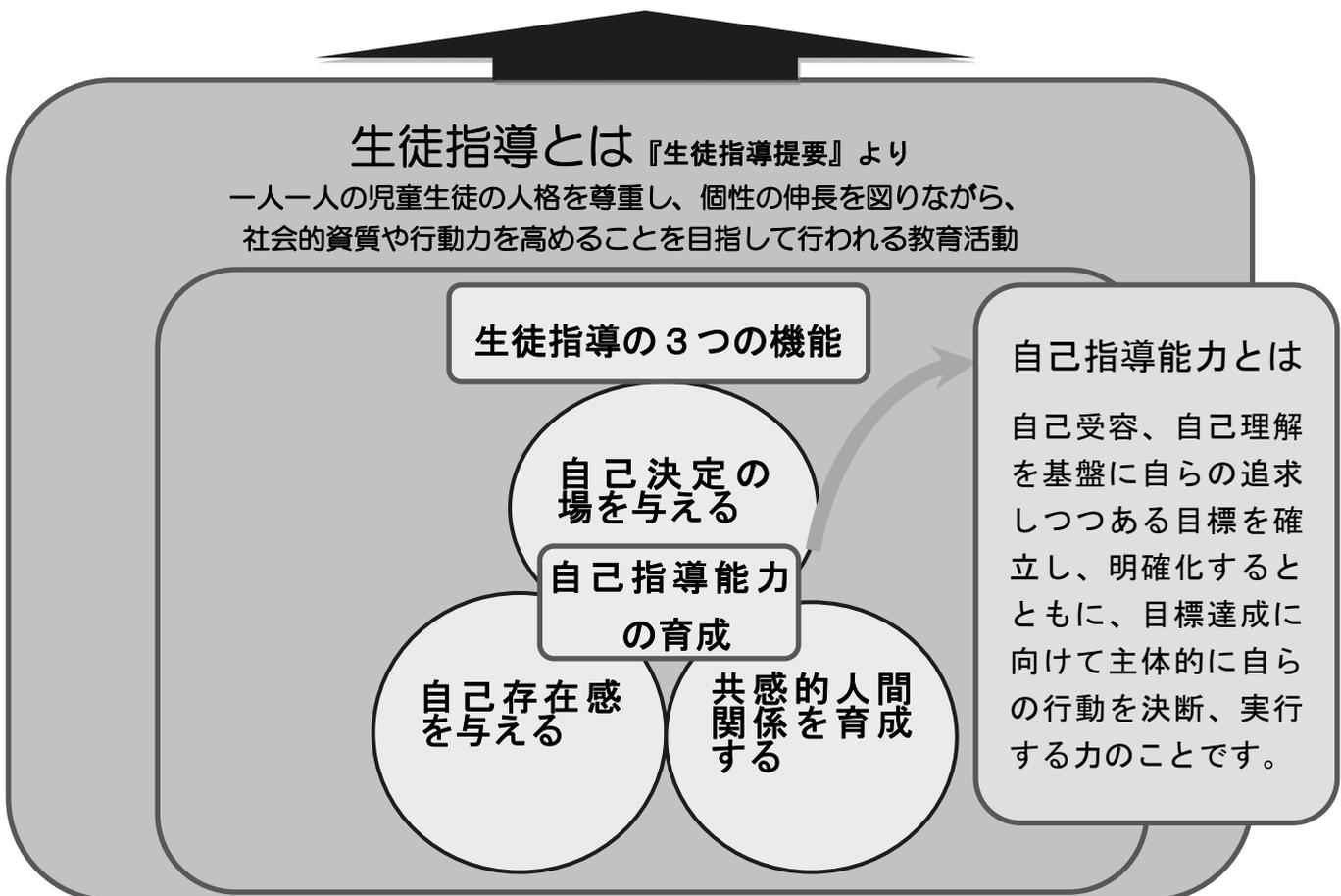
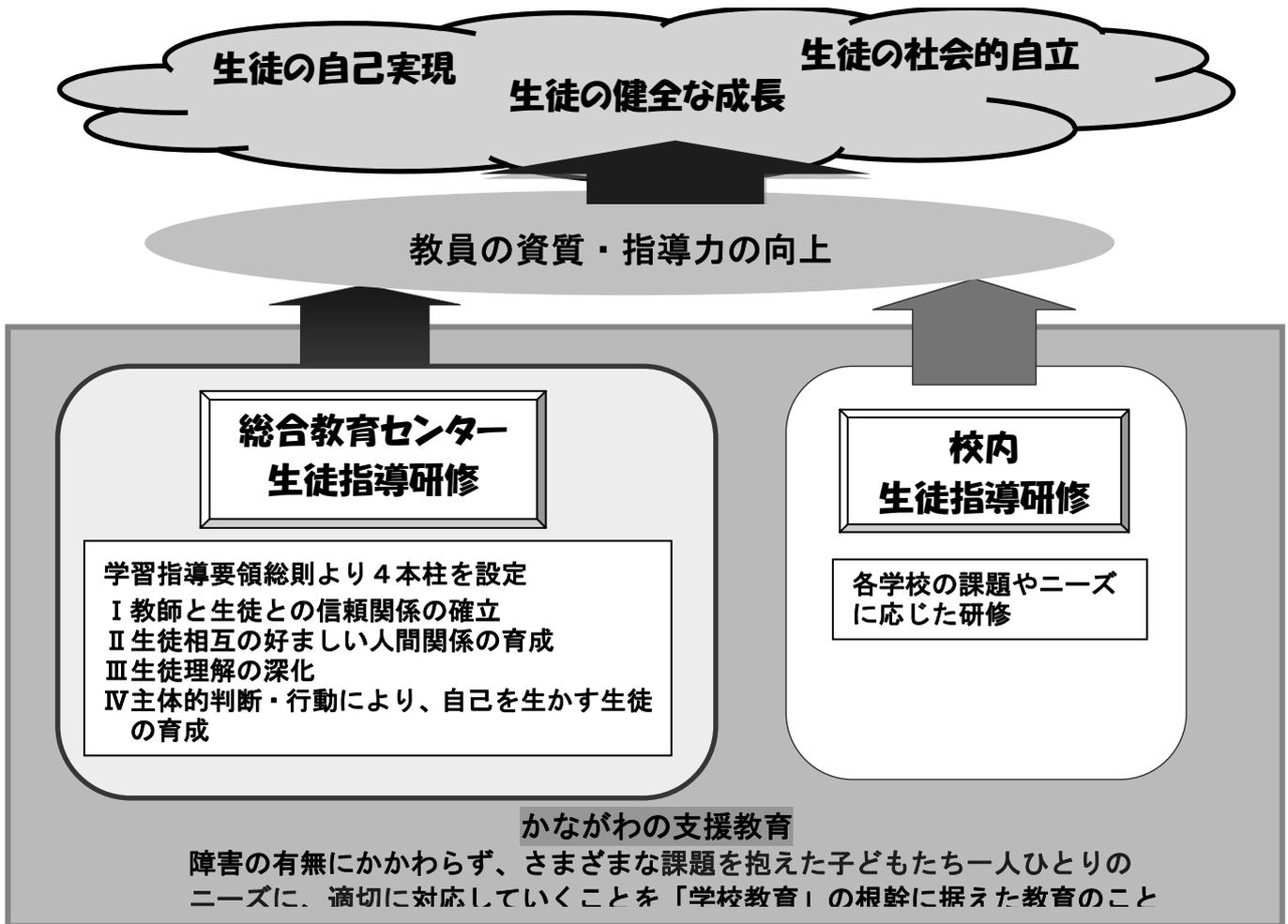
校内体制の編成や企画

生徒指導に関する最新情報の収集、学校の実態に沿った活用

管理職・・・全教育活動を通じた包括的・組織的な生徒指導体制構築の参考

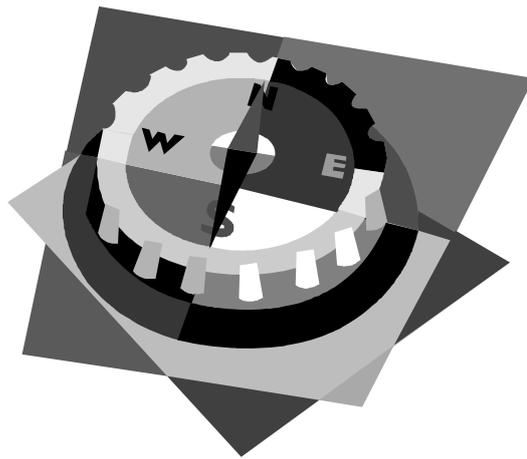
\* かながわの生徒指導と研修の柱について、次のような図にして整理しました。

## かながわの生徒指導(高等学校)と研修の柱



# 第1章

## 研修のための基礎編



そもそも生徒指導とは何を指すものなのでしょうか？

生徒指導というと、とかく問題行動への対応あるいは教育相談だけが強調されがちです。確かに、現実にはいじめ、不登校、暴力行為などの問題行動等は依然として厳しい状況にあります。それらへの適切な対応は大切なことであり、経験と実績の積み重ねから身に付いた力が必要なのはもちろんですが、併せて生徒指導に関する知識や理論の裏付け、有効な研修の在り方を知っておくことも重要なことです。

この章では、教員として知っておくべき生徒指導に関する基本的な理論や知識、研修の必要性についてまとめました。

# I 生徒指導の重要性



## 生徒指導とは・・・

生徒指導とは、「社会の中で自分らしく生きることができる大人に児童生徒が育つように、その成長・発達を促したり支えたりする意図でなされる働きかけ」の総称のことです。

- ◆児童生徒が自発的かつ主体的に自己を成長させていく過程を支援すること。
- ◆集団や社会の一員として自己実現を図っていく大人へと育つよう促すこと。

たとえば・・・

生徒全員がマナーとルールを守って、学校生活を送る指導と言っても、「自分さえ良ければよい」、「周りに迷惑をかけていない」など、自分勝手な振る舞いをする生徒へどのように指導したらよいか、困っています・・・



第2章「ホームルーム経営の工夫」がヒントになります！  
第3章「釜利谷高校の取組み」がヒントになります！

何度指導しても遅刻が減らない、授業中騒いでしまう生徒への指導はどうしたらよいのか・・・



第2章「授業における生徒との信頼関係づくりの工夫」や「生徒理解のための対話」がヒントになります！



## 生徒指導のねらいとは・・・



一人ひとりの生徒に、自己実現のための自己指導能力を育成することです。

これは自分勝手に行動することではなく、他人のためにもなる行動をとるような態度や能力を育成することです。

それらの育成をするためには「経験の積み重ね」を生徒にさせることが大切であり、あくまでも教師の指導がなければなりません。

授業の場面では、教えて理解させることはもとより、生徒が自ら体験し、実践させ、気付かせる機会が必要です。例えば、自発的な学習のための「朝の読書」で様々な世界を間接的に体験することは、自己を意識し始める時期の中・高生にはとても有意義なものですし、学習活動をスタートさせる朝の生活習慣として貴重な時間となっているようです。「子どもに落ち着きや集中力が出てきた」、「落ち着いて席に着けるようになった」などの、様々な効果が報告されています。

## II 自己指導能力とは



「自己指導能力の育成」には、3つの機能があります。

- ・ 自己存在感を与える機能
- ・ 共感的人間関係を育成する機能
- ・ 自己選択・決定の場を与える機能

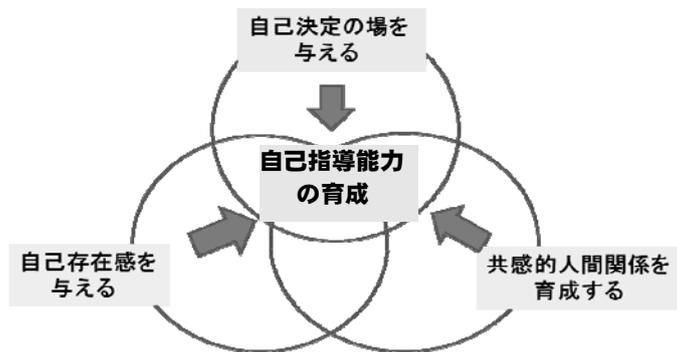
自己選択・決定の場を与えるために・・・

(授業で)

- ・ 一人で考える時間を十分に与える。
- ・ 自分の考えを、みんなの前ではっきり表現させる。

(授業以外で)

- ・ 話し合いで学級に必要な係を決めさせる。
- ・ 清掃の進め方や方法を自分たちで決めさせる。
- ・ 修学旅行の班別行動、目的地や決まりを自分たちで決め、行動に責任を持たせる。 など



自己存在感を与えるために・・・

(授業で)

- ・ どの場面で生徒を生かせるか考えておく。
- ・ テストや提出物に生徒に応じたコメントを書いて返す。

(授業以外で)

- ・ 欠席していた生徒に必ず声をかける。
- ・ 個々の生徒に活躍の場を与え、支援し、適切な評価をする。
- ・ どんな発言でもからかったり無視したりしない。 など

共感的人間関係を育成するために・・・

- ・ 放課後や校外活動の時など、一緒になって活動しながら指導する。
- ・ 生徒同士の間関係を的確に把握する。
- ・ 一人ひとりを受け入れて、ほめる。
- ・ 自らもけじめのある生活を生徒に示す。
- ・ つねに、生徒の人間性を認めていく。 など

生徒の自己指導能力を育成するためには、学校を中心に様々な形のコミュニケーションを通じた人間関係づくりが重要です。このことは生徒指導を推進する上で大変効果的です。



### 【参考：生徒と教員のコミュニケーションについて】

- 休み時間などにコミュニケーションタイムと称して校内をめぐり、生徒とのコミュニケーションを図りましょう。
- ホームルーム日誌に日々思うことを書かせ、コメントを記入し、その内容をもとに積極的な会話を図りましょう。
- 生徒の些細な行動や変化を見逃さず、積極的に声をかけ、褒め、励ましのことばをかけることで、自己肯定感を持たせる（「できて当然」、「わかって当然」ではなく、日常の中で「ほめて自己存在感を感じさせる」、「役割と遂行の機会を与え、達成感を実感させる」、「心配されていることに気づかせる」等）指導を行いましょ。

## 授業での指導の在り方は・・・

### 教員ができること・・・

- ・生徒が学習課題を自分のものとして明確に捉えられるよう配慮しましょう。
- ・生徒が活動できる場面や、自己選択・決定する場面を多く取り入れましょう。
- ・体験的な学習を取り入れ、生徒の多様な考え方を引き出すような発問の工夫をしましょう。
- ・生徒同士の学び合いの工夫をしましょう。
- ・生徒一人ひとりの能力に合った学び方ができるようにし、生徒にとって学びがいのある学習環境を整えましょう。
- ・生徒の学習に対する思いや願いを受け止めながら授業を組み立てましょう。
- ・生徒が「分からない」と言える雰囲気をつくり、補習などでも学習を補えるようにしましょう。



### 【参考：「学校ができる 教員ができる 不登校の未然防止」

（神奈川県立総合教育センター 平成 24 年 4 月）より

#### 忘れ物への対応

- 忘れ物をした生徒のために、教科書や筆記用具を教師が準備しておく。  
「どうして忘れたの」と失敗を責めるのではなく、失敗を繰り返さないように支援する。

#### 授業プリントの工夫

- 集団で授業を受けることが難しい生徒には、別室で個別に学習指導（プリント学習等）をする。また、学力の高い生徒に対しては、レベルの高いプリントも用意する。個々の学力に応えるために、習熟度別プリントを用意する。

#### 使用する教科書について

- 最初から内容が易しい教科書では、生徒の学習意欲が下がることがあるので、手応えのある教科書を使って、かみ砕きながら丁寧に教えるようにする。



## 学校行事での指導の在り方は・・・

例えば文化祭では・・・

担任はクラスの生徒に、話し合いや活動の中で無責任な発言や、批判的発言をしないように指導するとともに、リーダーや各係の責任者には「仕事を任せる」ことを告げ、失敗を恐れずに行動できるように支援、配慮しましょう。



## 生徒指導をキャリア教育の視点で捉えよう



### 生徒指導とキャリア教育の関係は・・・

生徒指導とキャリア教育は、ともに人格のより良い発達を支援するという目的を持ち、キャリア教育の具体的な取組みは、生徒指導としても大きな役割を果たすなど、密接な関係にあります。

キャリア教育とは、一人ひとりの社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てる教育を言います。

課題のひとつとして、コミュニケーション能力等職業人としての基本的能力の低下があげられます。

キャリア教育で育成すべき力・基礎的・汎用的能力

- \* 人間関係形成・社会形成能力
- \* 自己理解・自己管理能力
- \* 課題対応能力
- \* キャリアプランニング能力

○高等学校では、学校から社会・職業への移行を見据え、教育活動全般においてキャリア教育を推進することが求められています。

○生徒は目的を見失ったときに、無力感や孤独感から反社会的行動などをとってしまうこともあります。様々な場面で自己存在感を高め、目標に向かって努力する意欲や態度を育てることが重要です。



# III 生徒指導の課題



「生徒指導」というと、問題解決的な取組みに偏りがちですが、「生徒の健全な成長・発達を促す」ことが問題行動等の予防と、活力ある学校づくりにつながります。

生徒指導って、すべての教育の場にどのように活用させればいいのか？



第2章「授業における生徒との信頼関係づくりの工夫」

「ホームルーム経営の基礎」

第3章「橋本高校の取組み」

がヒントになります！



生徒一人ひとりの能力を見い出して、それを引き出すための指導はどのようにすればいいのか？



第2章「生徒理解のための対話」

「生徒理解とチームアプローチ」 がヒントになります！



保護者との関係はどうすればいいのか？  
地域の教育的、社会的資質を活用した支援体制づくりは？  
学校関係機関とのネットワークづくりの方法は？



第2章「保護者との連携と対応」がヒントになります！

第4章で各機関の連絡先を参照してください！

問題行動を頻繁に繰り返し、授業や学校生活にも落ち着いた取組みが見られません。どうしたらいいのか・・・



第2章「生徒指導グループとの連携」

「チーム支援とケース会議」 がヒントになります！



# IV 「かながわの支援教育」

## 「かながわの支援教育」とは..

「かながわの支援教育」とは、障害の有無にかかわらず、さまざまな課題を抱えた子どもたち一人ひとりのニーズに、適切に対応していくことを「学校教育」の根幹に据えた教育のことです。各学校に在籍するすべての子どもたちが、それぞれの必要性に応じて適切な支援を受けられるような学校づくりを進めていくことが基本となります。

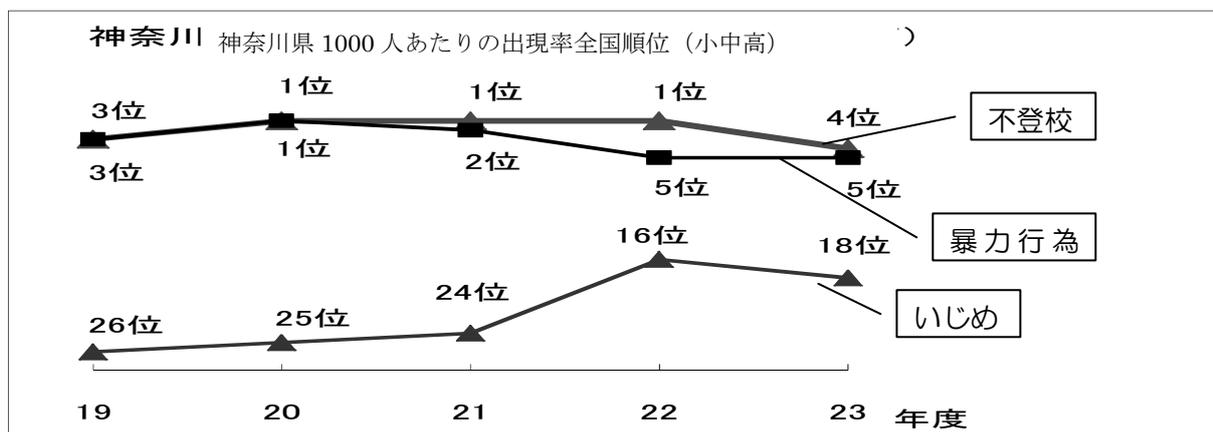
### 神奈川県支援教育充実のための具体的取組

- ・教育相談コーディネーターの養成と配置
- ・チームアプローチ（園内・校内体制）
- ・ケース会議
- ・個別の支援計画
- ・巡回相談 市町村の相談支援チーム  
特別支援学校の地域センター機能

「さまざまな課題を抱えた子どもたち」とは、発達障害のある子どもたち、心因性の背景を持つ不登校、集団への不適応、対人関係の取りにくさなど、自らの力で解決することが困難な課題すなわち「教育的ニーズ」を抱え、周囲からの支援が必要となる子どもたちです。神奈川県ではそのような子どもたちの教育的ニーズに応えるために、左のような具体的な取組みを行っています。

合い言葉は チームで対応 支援をつなぐ

## 神奈川県の「いじめ防止」や「不登校防止」の取組みについて



（「平成 23 年度神奈川県児童・生徒の問題行動等調査」より一部抜粋）

神奈川県では、「問題行動等はどの学校にもどの子どもにも起こり得る問題」として捉え、「学校教育全体・社会全体での取組み」等により、新たなケースの未然防止を目指しています。

〈例〉

- 「いじめ問題に係る点検」調査の実施  
文部科学省通知のチェックリストを活用して、市町村教育委員会や各学校が自己の取組みを点検するための調査を県独自に毎年実施しています。
- 「神奈川県児童・生徒の問題行動等に関する短期調査」の実施  
いじめや暴力行為、不登校の状況を教育委員会が把握することを通じて、即時的な対応・支援の充実につなげることをねらいとして実施しています。

# かながわの支援教育

生徒の表面的な問題行動の部分のみを指導するのではなく、その背景や原因を把握、理解し、それぞれに合った適切な支援を行いながら改善に向けて指導するという考え方は、もちろん、単なる状況把握や同情に終わることなく時には毅然とした指導も必要です。

いじめ  
暴力行為  
不登校  
非行など

表面的な  
行動

実態把握  
子ども理解

背景や原因

- ・対人関係
- ・学習状況
- ・家庭環境
- ・生育歴
- ・発達障害  
など

抱えているニーズ

教育的ニーズ

- ・学習の遅れ
- ・集団不適応
- ・心理的不安  
など

医療的ニーズ

- 福祉的ニーズ
- 経済的ニーズ  
など

信頼関係

理解につながる指導

専門的な支援

適切な支援  
チーム支援

学 校

- ・校内委員会
- ・生徒指導グループ
- ・個別の支援計画

連携

医療、福祉

労働、司法

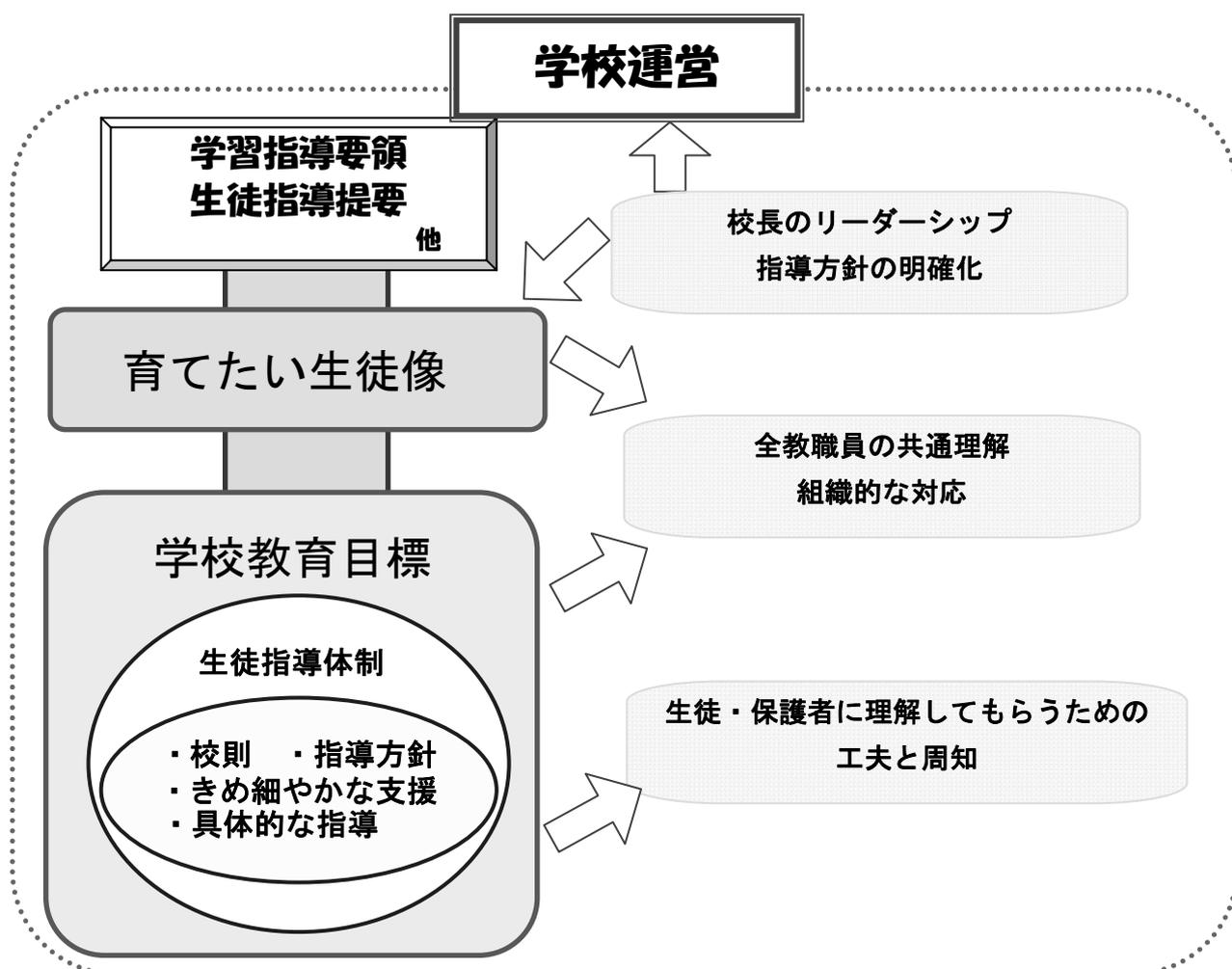
## 「かながわの支援教育」

障害の有無にかかわらず、さまざまな課題を抱えた子どもたち一人ひとりのニーズに適切に対応していくことを「学校教育」の根幹に据えた教育のことです。

# V 生徒指導の体制



生徒指導は、学校の教育目標を達成する上で重要な機能を果たします。家庭や地域の意向や評価の把握、関係機関との協働体制も含めて、校内の生徒指導体制の確立が求められています。常により良い体制を築いていくための検証や見直しも必要です。



## 教員ができること・・・

- 生徒指導体制には、校則、指導方針、きめ細やかな支援や指導等、具体的な仕組みや機能を含みます。
- 体制を確立するには、生徒の実態に沿った生徒指導の必要性、全教職員の共通理解、クラスや学年、学校経営の一貫性を図ることが大切です。



# VI 生徒指導に係る研修の必要性



問題行動等への対応にとどまらず、授業や学校生活の各場面に  
応じた生徒指導が実践できるよう、必要な力量を効果的に  
習得するための教員研修を進めましょう。

## 生徒指導に関して教職員に求められる力量とは

### ○生徒指導を進めるための基盤能力とは・・・

生徒一人ひとりと信頼関係を構築する能力を持つことが必要です。一人ひとり、あるいは生徒の集団の状態や心理を理解する能力が求められます。

### ○教員に求められる基本的な力とは・・・

日々の指導ポイントとして、生徒の基本的な生活習慣の確立と安全に関わる点があげられます。問題行動の早期発見や早期対応ができるのはホームルーム担任や教科担任であり、問題を重度化・長期化させない効果的な指導が求められます。

### ○基本的な力を踏まえて中堅教員に求められる力とは・・・

生徒指導に係る最新の情報を収集し、組織の中核として他の教員に対し支援的な関わりを持つことが求められます。他の教員の相談相手になるための個別指導の基本を理解することが大切です。

(「生徒指導に関する教員研修の在り方について(報告書)」文部科学省平成23年6月)より

## なぜ研修が必要なのか？—神奈川県教員年齢構成の実態より—

○若手教員とベテラン教員をつなぐ中間層が少なく、ベテラン教員の持つ授業技術等が継承されにくい。

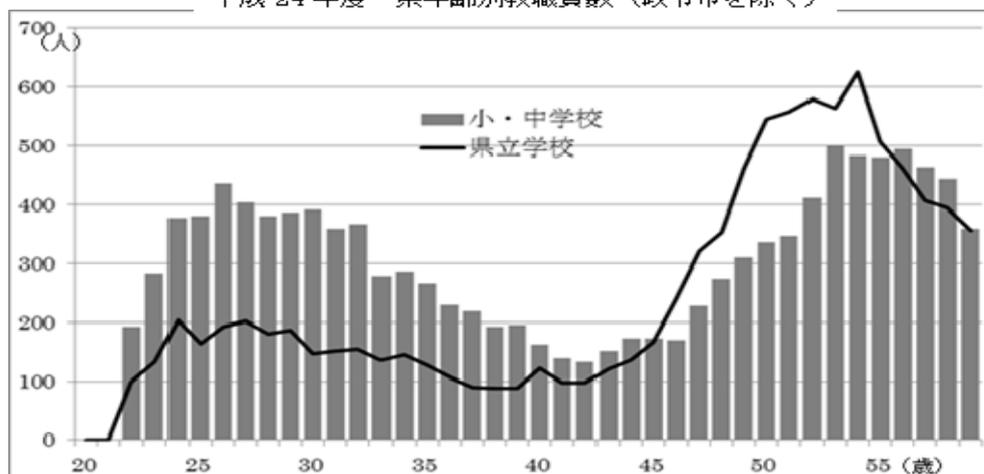
→教育力の継承、若手育成を意識した研修体系の構築が必要です。

○平成25年度に10年を経た教員が小・中・高・特別支援を合わせて500人を超え、今後1000人規模の研修が見込まれる。

→効率的、効果的な研修を行う必要性があります。



平成24年度 県年齢別教職員数(政令市を除く)



(神奈川県ホームページ「平成24年 人事に関する統計調査」を基に作成)

**研修にあたっては、次の課題が考えられます。**

(例)

- 若手教員育成の意識をもった中堅・ベテラン教員の育成
- キャリア教育と生徒指導をつなげる研修への移行
- より主体的・実践的に行う研修の実施

## 研修の進め方

**効果的な研修を進めるためのポイントを押さえましょう。**

- 研修を計画しましょう
  - ・研修の総時間、年間スケジュール
  - ・問題解決的な研修と、発達促進的な研修のバランス
- 研修会を運営するには・・・
  - ・学校を取り巻く現状の把握、学校のニーズ、参加意欲を高める工夫
- 研修会を組み立てましょう
  - ・生徒指導體制の共通理解のための研修
  - ・生徒理解のための研修
  - ・校種間連携のための研修
  - ・生徒指導の充実につなげる研修
- 研修効果を評価しましょう
  - ・点検
  - ・生徒や保護者、学校評議員による評価



**効果的な研修のためには・・・**

校内の連携や情報の共有、緊密な協力体制が必要です。そのためにも教職員間の日ごろの良好な人間関係や教員間のコミュニケーションが重要となります。これは、全教職員の共通理解に基づく協力体制を整えるためにも、日ごろから教員同士が積極的にコミュニケーションを図り、雰囲気の良い教職員集団を築くことも、生徒にとって、生徒同士または生徒と教員のコミュニケーションと同様に、重要なことです。

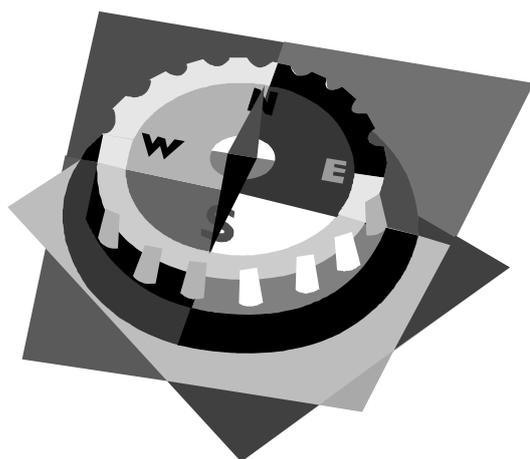
生徒指導とは本来、生徒指導担当グループの教員だけが行うのではなく、教科指導と並び、学校教育の大切な指導の一つとして、全教職員で行うという認識をあらためて持つことが必要です。このことを踏まえて、全教職員による協力体制、共通認識は欠かすことのできない重要な要素です。そして、グループ会議、学年会議、職員会議などで具体的な討議・議論を行うことで共通理解を図ることも必要となります。諸会議のみならず、職員室内での日常的なコミュニケーションなど、様々な機会において生徒の情報を共有し、学校全体として生徒理解と指導・支援体制の構築に努めることが重要です。

(「生徒指導研究集録」神奈川県教育委員会 平成 23 年度) より



## 第2章

# 総合教育センターにおける研修



総合教育センターでは、経験の浅い教員の力量を高め、生徒指導の基本的な知識・技能を習得することを目的として、生徒指導に係る初任者研修の体系を再構築しました。再構築に当たっては、生徒指導に必要な事項を「学習指導要領」総則第5款を参考に、下に示す「4本の柱」に整理し研修プログラムを構成しました。この研修プログラムについては、本冊子P.48を参照してください。

この章では、研修プログラムの全14講座の内、9講座についての研修概要とそれを踏まえた校内研修への提案を示します。

学校の実践力を高めるためには、総合教育センターで行う集合研修と学校で行われる校内研修を効果的に結びつけることが必要です。第3章で紹介する組織的な校内研修を企画するための指針として活用してください。

### ● 4本の柱

総論	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	P. 14・15
I 教師と生徒の信頼関係の確立	・・・・・・・・①P. 16~19 ②P. 20~23 ③P. 24~27	
II 生徒相互の好ましい人間関係の育成	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	P. 28~31
III 生徒理解の深化	・・・・・・・・・・・・・・・・①P. 32~35 ②P. 36~39 ③P. 40~43	
IV 主体的な判断、行動により自己を生かす生徒の育成	・・・・・・・・・・・・・・・・	P. 44~47

## 【かながわの生徒指導 総論】

### 講義 「『かながわの支援教育』を基盤とした生徒指導の在り方」

○研修のねらい この「かながわの生徒指導」では、平成 22 年に出された「生徒指導提要」を踏まえ、神奈川県としての生徒指導の在り方を示していく。本講義は1年間のガイダンスとしての位置付けとなる。

#### ○課題

従来、生徒指導は問題行動を起こす生徒を対象とし、教育相談がその対極に位置づけられ、特定の生徒を対象とする印象が強いように受け止められています。平成 22 年に出された「生徒指導提要」では、生徒指導はすべての生徒を対象とし、学校教育の中で組織的・体系的な取り組みを行っていくことの必要性が述べられています。

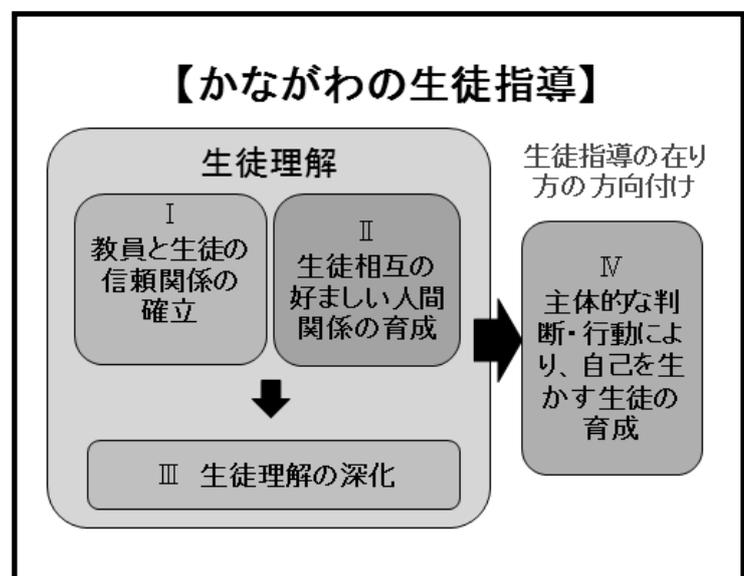
この考え方は、神奈川県が提唱する「支援教育」の視点に繋がるもので、この視点から生徒指導を捉えたとき、「これからの生徒指導」の在るべき姿が見えてくると考えられます。

#### ○「かながわの生徒指導」の基本的な考え方

- すべての児童・生徒を対象とし、教育活動のあらゆる場面で取り組む、神奈川県が提唱する支援教育の考え方を理解すると共に、その支援教育が生徒指導の基盤になります。
- 本研修プログラムは、学習指導要領や生徒指導提要が示す生徒指導の在り方や意義を踏まえています。
- 目指す生徒指導は、問題行動や教育相談への対応で終わるのではなく、それらの予防的指導であったり、さらには、すべての生徒における将来の自己実現に向けた自己指導能力の育成を目指したりする学校教育活動であり、それは、授業やホームルーム活動などあらゆる場面で取り組む活動です。

#### ○講義の概要

- 1 「かながわの支援教育」は、自らの力で解決できない課題を教育的ニーズと捉え、生徒一人ひとりの教育的ニーズに適切に対応していく教育のことで、障害の有無に関わらず、すべての子どもが対象であり、教育活動全般でその必要が生じる可能性があります。
- 2 生徒指導は、一人ひとりの児童生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、社会的資質や行動力を高めることを目指して行われる教育活動であり、「支援教育」と同様、すべての子どもを対象にした、あらゆる教育活動に関わる性質を持つものです。
- 3 このことから、神奈川県における、「生徒指導」は、神奈川県が提唱している「支援教育」を基盤として捉えることを特徴としています。
- 4 本研修では学習指導要領総則第5款5(3)を踏まえ、右図に示すようなⅠ～Ⅳの4本の柱立てを考え、この柱立てに従って、1年間の研修計画が立てられています。



<初任者は「授業」を心配している>

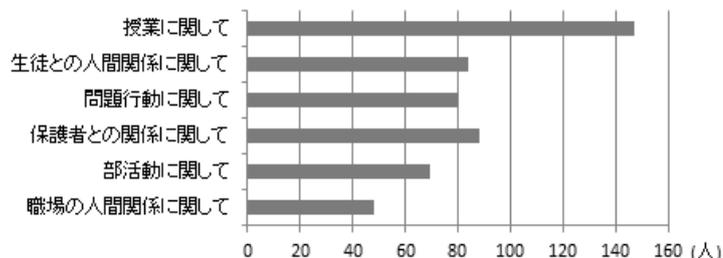
「授業」についての不安・心配

の内容をみると、・・・

- ・生徒にとって、分かりやすい授業づくりができるかどうか？
- ・どのようにしたら生徒が興味を持つかどうか？
- ・授業に参加してこない生徒への対応はどうしたら良いか？  
などがあげられました。

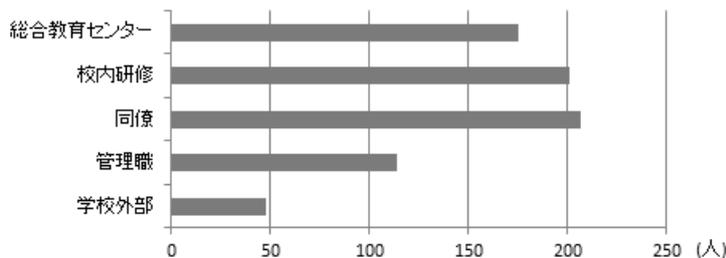
「Q 生徒指導上不安や心配に思うことを各該当について具体的に書いてください。」という質問に対して、記述があった人数は？

(アンケート回収数: 251人)



<初任者は「様々な学びの場」を期待している>

Q 生徒指導に関する知識や技術をどのようにして学んでいこうと考えていますか？  
(アンケート回収数: 251人)



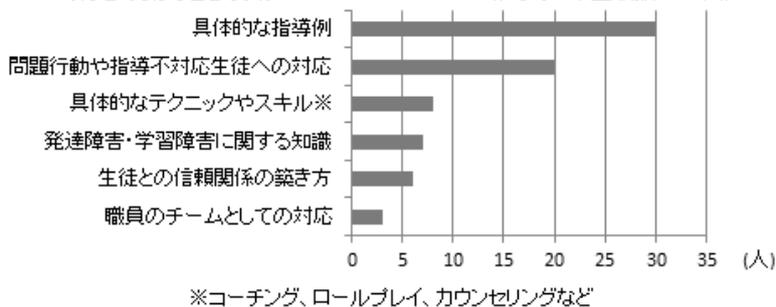
初任者が期待する生徒指導の学びの場として、勤務校の同僚や校内研修への期待は大きいのですが、初任者研修講座の中心会場である総合教育センターへの期待も大きいことが示されました。

総合教育センターでは、校

内研修の進め方についてもモデル校の協力を得て、効果的な研修の在り方を研究しています。その研究成果も、研修の中で報告していきたいと考えています。

<初任者は「具体的な指導例」を求めている>

Q 総合教育センターの生徒指導に係る研修講座で、今後あなたが学びたいと思うのはどのようなことですか？  
(アンケート回収数: 251人)



※コーチング、ロールプレイ、カウンセリングなど

初任者が総合教育センターに期待している研修内容は、学校生活のあらゆる場面の「具体的な指導例」でした。

着任と同時に、担当クラスの授業を任されている初任者にとっては、当然の思いではないかと思えます。しかし、初任者研修講座を企画するにあたり、長年の

経験と勤に支えられてきた従来の生徒指導に、経験を普遍化する理論を加えた研修を伝えたいと考えています。

これから始まる初任者研修生徒指導プログラムは、生徒指導の理論とそれを理解するための豊富な事例によって、構成されています。

## 講義 「授業における生徒との信頼関係づくりの工夫」

○研修のねらい 高等学校における授業を中心とした、教育活動全般における生徒・教員間の信頼関係づくりについて理解を深める。

### ○講義の概要

- 1 授業における生徒指導の意味とねらい
- 2 生徒指導の機能と学習意欲の向上の関連性について
- 3 授業で実践できる手立てについて
- 4 実践事例の紹介と取組みの成果
- 5 授業を見直そう

高校生が毎日の授業で「やる気になる」とき

- 1 授業がおもしろいとき
- 2 授業がよくわかるとき
- 3 将来就きたい職業に関心を持ったとき

(国立教育研究所調査より)

問題行動等への対応に追われていると、日々の授業どころではなくなってしまう場合がありますか。

「分かる授業」「できる授業」からは遠ざかり、それが新たな問題行動へと結び付く……。十分な教材研究もできないままに場当たりの授業の連続になりかねません。

例えば、こんな場面はありませんか？ 授業を抜け出し、廊下や空き教室に集まり話をする生徒たち。具合が悪いと言

い訳をし、保健室に入り浸る生徒たち。そんな生徒たちに、「教室に戻りなさい」「今は、大事な授業の時間だよ」と声をかける。しかし返ってきたのは、「だって、授業がつまらないし……」「どうせ分からないから……」という声。肝心かなめの「授業の充実」という視点が抜けてしまっている生徒指導は、やはり消極的なものといえるでしょう。

生徒指導の本来の目的を確認しながら、各教員の教科に対する専門性を十分に生かした「授業づくり」の大切さについて考えてみてください。

日常の授業においてこそ！

授業は学校生活の基本です

問題行動の対応に追われていると……

生徒指導の機能を生かすことは学習意欲を支えます

### 生徒指導の推進

↓ 目指すもの

自己指導能力の育成

↓ とは

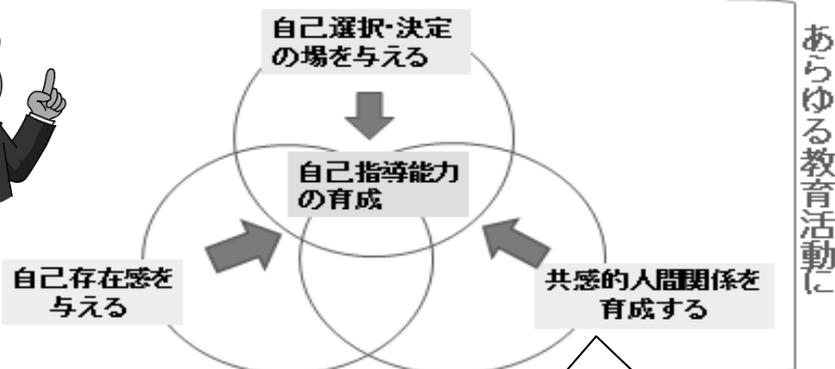
その時その場でどのような行動が適切であるか、自分で考えて決めて実行する能力



## 生徒指導の「3つの機能」を授業の中で実践するには・・・

### 自己選択・決定の場を与えるために・・・

- 1 生徒が興味・関心を持ち、主体的に学ぼうとするように資料や教材提示の方法を工夫しよう。
- 2 調べたり、考えたりする時間を十分に与えよう。
- 3 授業中で生徒自身が、自分の考えを発表できる機会を設けよう。
- 4 正解ひとつを答えさせて終わりではなく、対比する意見が出やすいような発問をしよう。



### 自己存在感を与えるために・・・

- 1 間違った応答も大切に受け取り上げよう。
- 2 生徒の名前をなるべく早く覚え、名前を呼ぶようにするとともに、目をしっかり見て話そう。
- 3 つぶやきも積極的に取り上げ、発表のチャンスを与えるようにしよう。
- 4 一方的な講義中心の授業でなく、生徒が参加しているという気持ちをもてるように、話し合いや作業などのグループ活動を取り入れよう。
- 5 授業の中で承認、賞賛、励ましをしよう。
- 6 生徒の状況をよく把握し、授業のどの場面でもどの生徒を生かすかを工夫しよう。

### 共感的人間関係を育成するために・・・

- 1 授業規律についてはきちんと説明し、好ましい姿はほめ、好ましくない姿は正すように、教員の姿勢を明確にしよう。
- 2 たどたどしい発言でも言い終わるまで待ち、的外れの考えや意見も熱心に聴こう。
- 3 他の生徒の発言は、黙ってきちんと聴かせるとともに、間違いなどを笑わないように指導しよう。
- 4 相互評価を取り入れ、お互いの良さを認め合うような指導を取り入れよう。
- 5 共に発言をつなげ、集団の学び合いにしよう。
- 6 自己開示し、生徒から学ぶ姿勢をもとう。

### ○講義を受けたことで変わったこと

(受講者振り返りアンケートより)

- これまでの経験から、「生徒指導」とは生徒を呼び出して指導したり、体育館に集めて指導したりすることだと思っていた。
- 授業において、生徒一人ひとりに声をかけて自己存在感を与えられるようにしたい。
- 授業で生徒にやる気を起こさせるために細やかな配慮をすることも、生徒指導であることを知った。
- 一人ひとりを大切にする「優しい生徒指導」も重要だが、学校の規律を守らせる「厳しい生徒指導」も必要だと思った。
- 嫌なことや苦しいことに立ち向かっていく姿勢を育てることも、社会に出ていく場面で必要だと思う。
- 不登校経験者に対し、小・中学校の「学び直し」をしつつ、高等学校の学びを習得させるためには、一層の授業の工夫が必要だと思った。



校内研修テーマ：「授業における生徒との信頼関係づくり」

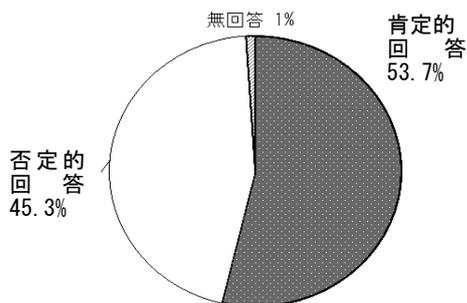
○課題 「授業における信頼関係づくり」、していますか？

下の図や表から、あなたは何を読み取りますか。



○本県の高校生の状況

「学校の勉強を理解していますか」



校種		原因・きっかけ
小学校	1位	いじめを除く友人関係をめぐる問題
	2位	学業不振
	3位	教職員との関係をめぐる問題
中学校	1位	いじめを除く友人関係をめぐる問題
	2位	学業不振
	3位	いじめ
高等学校	1位	学業不振
	2位	いじめを除く友人関係をめぐる問題
	3位	入学、転編入学、進級時の不適応

平成 23 年学習状況調査アンケートより

平成 22 年度神奈川県児童・生徒の問題行動等調査結果より

下のシートは、「実践した授業が、生徒の願いや思いに応えられていたかどうか」を見直せるように作成されたものです。授業の振り返りの手立ての一つとして、チェックしてみてください。

シート1 授業見直しチェック表

<◎：十分達成できた ○：おおむね達成できた △：努力が必要>

視 点	チ ェ ッ ク 内 容	◎・○・△
教師の姿	1 身に付けさせたい力を明確に設定した。	<p>「授業の中の生徒指導」について、自分の振り返りだけでなく、研修会で協議してみよう！</p>
	2 学習課題は、児童・生徒の興味・関心を踏まえた。	
	3 教科の内容を深く理解して授業に臨んだ。	
	4 発問や指示の内容をわかりやすく生徒に伝えた。	
	5 考える時間を保障した。	
	6 書く時間を保障した。	
	7 ペアワークやグループ活動を取り入れた。	
	8 教師よりも生徒が話す時間を多くするようにした。	

上記「シート1 授業見直しチェック表」は、「学校ができる 教員ができる 不登校の未然防止ガイドブック」（神奈川県立総合教育センター 平成 24 年 4 月）から引用しました。どうぞ、活用してください。



○身に付けて欲しい力や考え方

- 生徒指導とは、問題行動が起きた時の対応だけでなく、学校生活全般で行われるものです。
- 学校生活で、一番長く過ごす授業でこそ、適切な生徒指導が必要です。
- 生徒にとって「分かる授業」について考えることが必要です。
- 教員の適切な指導によって、生徒が授業に前向きに取り組むことができ、教員と生徒の信頼関係を築くことが大切です。

教員の思いや授業で気を付けていることを付箋に書いて模造紙に貼り、皆で共有します。



**付箋に意見を書く効果**

- ・参加者全員が意見を書くので、協議に対し受け身にならず、「みんなで協議に取り組もう」という一体感が生まれます。
- ・全ての意見が尊重、共有されるので、多面的な捉えや気づきなども出しやすくなります。

**その1**

テーマ：「授業中、教員が心掛けていること」



**例) ある学校の場合**

- プラスの言葉で指導する。
- やさしく接し、わかりやすく教える。
- 失敗をとがめない。
- 授業に参加するといいいことがあると感じさせる。
- 個に合わせた対応をする。

ある学校では、生徒が授業に出席しやすい雰囲気をつくったり、生徒が安心して意欲的に学習に取り組むことができるようにしたりするために、さまざまな工夫を日常的に行うようにしました。  
こうした取組みを通して、生徒一人ひとりの個別対応を大切にすることで、「学校に来れば自分に合った学習が受けられる」という思いを生徒に抱かせることができ、履修促進の成果も上げることができました。

**その2**

テーマ：授業中での、生徒一人ひとりへの気配りの効果

**取組みの成果**

- 授業が「自分のためになること」を生徒が実感し、授業に対して前向きになった。
- 人前で話したり、将来のことを考えたりすることができるようになった。
- 学校出席率が増加し(3年間で約2倍)、退学者数が毎年減少した(3年間で約4分の1)。

ある学校の取組みは、「単位制による定時制普通科」の特色を生かしたのですが、「内容を精選した指導」、「生徒の学習状況に合わせた授業」、「じっくりゆっくり進むカリキュラム」など、授業づくりの参考となる点がたくさんあります。

教員それぞれの思いや工夫を共有することは、学校が抱えている課題を解決するための大きな力となります。学校の目標や生徒の実態に合わせたテーマを設定するとよいでしょう。

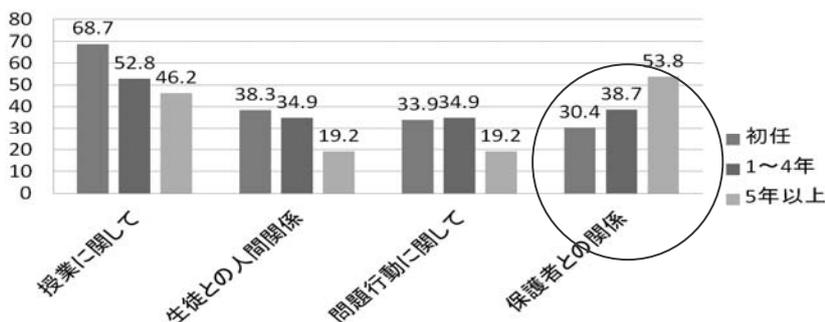


## 講義 「保護者との連携と対応」

○研修のねらい 保護者を、生徒をめぐる課題解決のパートナーとして捉え、教員と保護者が相互に理解し、協力関係をつくるために必要な事柄について考える。

### ○H23 年度初任者研修受講者アンケートより

あなたが勤務する上で、  
生徒指導上不安や心配に思うことについて



同じ初任者でも、教員経験の長い者ほど「保護者との関係」への不安や心配は高いことがわかります。

### ○講義の概要

#### 1 保護者との連携の意義

…生徒の「環境」への理解、保護者との信頼関係と協力関係の構築

#### 1 保護者との連携の意義

- ①教員が生徒の環境についての理解を深める
- ②教員と保護者の相互理解を進める
- ③生徒の問題行動への協力関係をつくる

生徒指導についてはここが特に重要

#### 2 ニーズ、場所、手段を押さえる

…教員と保護者、主体はどちらか。  
面談か、電話か、手紙か等

#### 2 ニーズ、場所、手段を押さえる

- 連携ニーズは教員側？保護者側？
- 保護者を学校に呼ぶか、教員による家庭訪問か。
- 面談による対話か、電話による対話か、手紙など文書による連絡か。



生徒指導の場合、  
連携ニーズは教員にあり、  
手段は「対話」による場合が多い

#### 4 保護者との対話のポイント

……保護者をまず安心させ、面談や連絡の目的を常に意識する

- ①傾聴する姿勢
- ②保護者への信頼とパートナーシップ
- ③自己開示と説明責任  
(アカウンタビリティ)
- ④対話を通じて変化すべきは教師
- ⑤保護者が自己と向き合うことへの援助
- ⑥課題の再確認と解決へのアクション

#### 保護者との対話のポイント

◎一番大事なこと:

保護者をまず安心させ、面談や連絡の目的を常に意識すること。

- 伝えるべき内容は事前に整理されているか?
- 自分の服装は?
- 面談場所の環境は?
- ふるまうべき態度は?



#### ④対話を通じて変化すべきは教員

- 生徒も様々な“顔”を持っている。
- 「保護者は子どもをわかっていない」ではなく「教員は生徒をわかっていない」と考える方が自然である。

豊かな生徒像で、指導の在り方は変化する。

#### ⑤保護者が自己と向き合うことへの援助

- 保護者の不安や苦しみに寄り添う。
- 家族全体、地域の援助資源などを話し合うことで、新たな教育力を引き出すことも重要な援助。
- 学校での事は我々教員に任せてください」と言いきれることの重要性。

「生徒のどこをどう成長させたいか」家庭で行うべきことと、学校で行うべきことを、保護者と教員で整理し、確認する。

- 5 それでも「限界」を感じたなら  
……とにかく一人で抱え込まないで！  
チームで対応しよう！

#### 5 それでも「限界」を感じたなら……

- 同僚、先輩教員、管理職に相談しよう。
- スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーなど、学校内外の資源を生かそう。
- ケース会議や支援チームの立ち上げなど、組織の問題として扱ってもらおう。

とにかく1人で抱え込まない！  
チームで対応しよう！



#### ○講義を受けたことで変わったこと

(受講者振り返りアンケートより)

- 指導する際に「生徒の何を成長させたいか」を伝えることが大事だと気付いた。
- 生徒への対応は、すべて保護者へ伝わっているという気持ちで指導していきたいと思う。
- 教師が変わるためには、保護者から話を聴くという姿勢に共感したので、ぜひ取り組みたい。
- 保護者と関わる際、教員と保護者の双方から情報提供しやすい関係づくりを心掛けたい。
- 保護者の対応は、漠然と「とても大変なもの」と思っていたが、信頼関係を築くことができれば強い協力を得られると思った。
- 指導は「反省させるためのペナルティ」のようなものではないかと、ずっと感じており、その考えに疑問を感じていたが、今回の生徒指導は支援教育につながることを実感できた。
- 保護者と接する機会があれば、まず話をよく聴くことから実践したい。

## 校内研修テーマ：「保護者との効果的な面談の在り方」

### ○身に付けて欲しい力や考え方

- 保護者と連携する際に教員が心がけることは、生徒について教えをいただくという丁寧な態度です。
- 必要な姿勢とは、保護者に敬意をもち、教員は自分の知る事実や自分の考えを提示しながら、保護者との対話を通じて教員自身の考え方や思い込みを変えようとすることです。
- 教員の思いと姿勢が保護者に伝わることで、保護者は自分が取り組むべき課題に安心して向き合うことができます。ここで初めて、生徒の支援ニーズを中心に据えた対話が教員と保護者の間で成立し、双方が主体的に課題解決へ向かう準備が整います。
- 保護者との対話において、教員側のニーズや思いを伝えることが中心になりやすいですが、保護者の思いを引き出し、教員と保護者の相互に豊かな生徒像を形成することが必要です。

### 【ねらい】

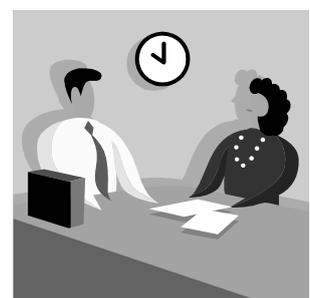
ロールプレイを通じて、保護者の立場から教員の伝えたいことがわかるか、親としてどのような気持ちになるのかを体感することで、適切で効果的な保護者との関わり方を学ぶ。

- 1 問題行動を起こした生徒の架空事例をつくり、生徒の困りと担任として考えられる支援、保護者との連携の仕方や配慮、最初に連絡を取るときに伝えたいことについて考え、用意したワークシートに記入する。
- 2 ワークシートに記入したことをもとに、グループで協議する。
  - ①生徒Aの困っていること、担任としての支援の在り方
  - ②保護者との連携の仕方と配慮すること
- 3 保護者と初めて面談するというシチュエーションで、教員役・保護者役・観察者になり、役割を演じる。
  - 担任として伝えたいことが伝えられたか。
  - 保護者としてどう感じたか。
  - 観察者はどう感じたか。※可能なら、役割を変えて2回目を行ってください。
- 4 全体で感想を交流する。
  - 協議を通して考えたことや、保護者と連携するときに大事なことなど。

※架空事例は、学校の実情に応じた、実際に合った事例等を参考に作成してください。

※1と2の手順は、面談前の“作戦会議”にあたるものです。

※ロールプレイにあたって、職員を2つのグループに分け、異なる事例を扱い、教師役、保護者役を相互に割り当ててもよいでしょう。



参考：保護者と面談する時は・・・

○保護者との関係

- 学校の方針を適切に保護者に伝え、理解を求めよう。
- 学校と保護者との信頼関係をつくろう。

○面談時に気を付けたいこと

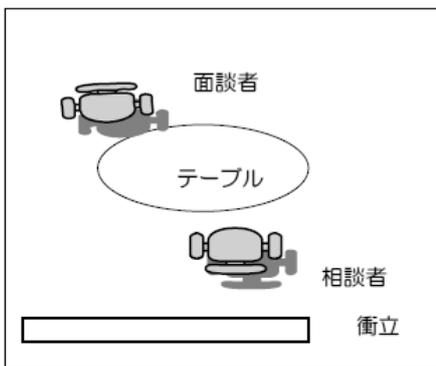
- 「お忙しい中お越しいただき、ありがとうございます。」等、ねぎらいの言葉をかける。
- 相手の緊張をほぐし、リラックスして話せるように心がける。
- 生徒の家庭での様子や保護者の考え等を聴き、どのようなことでもそのまま素直に受け止める。
- 相手が何を言いたいのか、その意図を解するように聴く。
- わかることは「わかります」、わからないことは「もう少し聴かせてください」ときちん伝え、正直な対話を心がける。
- 生徒の問題を明確にして、問題をプラスに解決していくために、どのような協働ができるかを検討するように心がける。
- 原因や起きてしまったことに執着せず、現在、もしくはこれから先、具体的にできることを考える。
- 今後とも互いに生徒を支援する立場に立ち、協力していくことを確認して終わる。

《注意》

- 学校で行う面談は、何か目的がある。目的に沿った対応を心がけ、画一的にならないよう努めよう。何のために行う面談なのかを明確にすることが大切です。
- 結論を急がず→「聴く」ことをこころがけよう。
- 相手の話が理解できなかつたり、自分の考えと異なつたりする場合も、説教したり、説得したりせず→「聴く」ことをこころがけよう。

\*面談する場所は、プライバシー、リラックスした雰囲気、相談者との距離等に配慮しましょう。

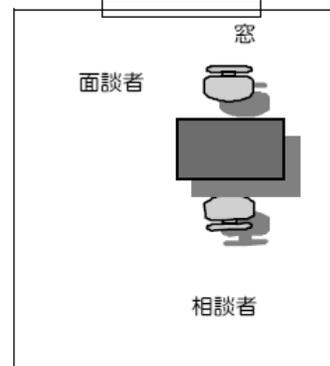
(1対1の場合の例)



(1対2の場合の例)



(教室の場合の例)



\*プライバシー保護に留意する。

(H21 生徒指導研究集録〈神奈川県教育委員会〉より)

## 講義・演習 「ホームルーム経営の基礎」

○研修のねらい

高等学校におけるホームルーム経営の基礎を理解し、より良いホームルーム経営についての考えを深める。

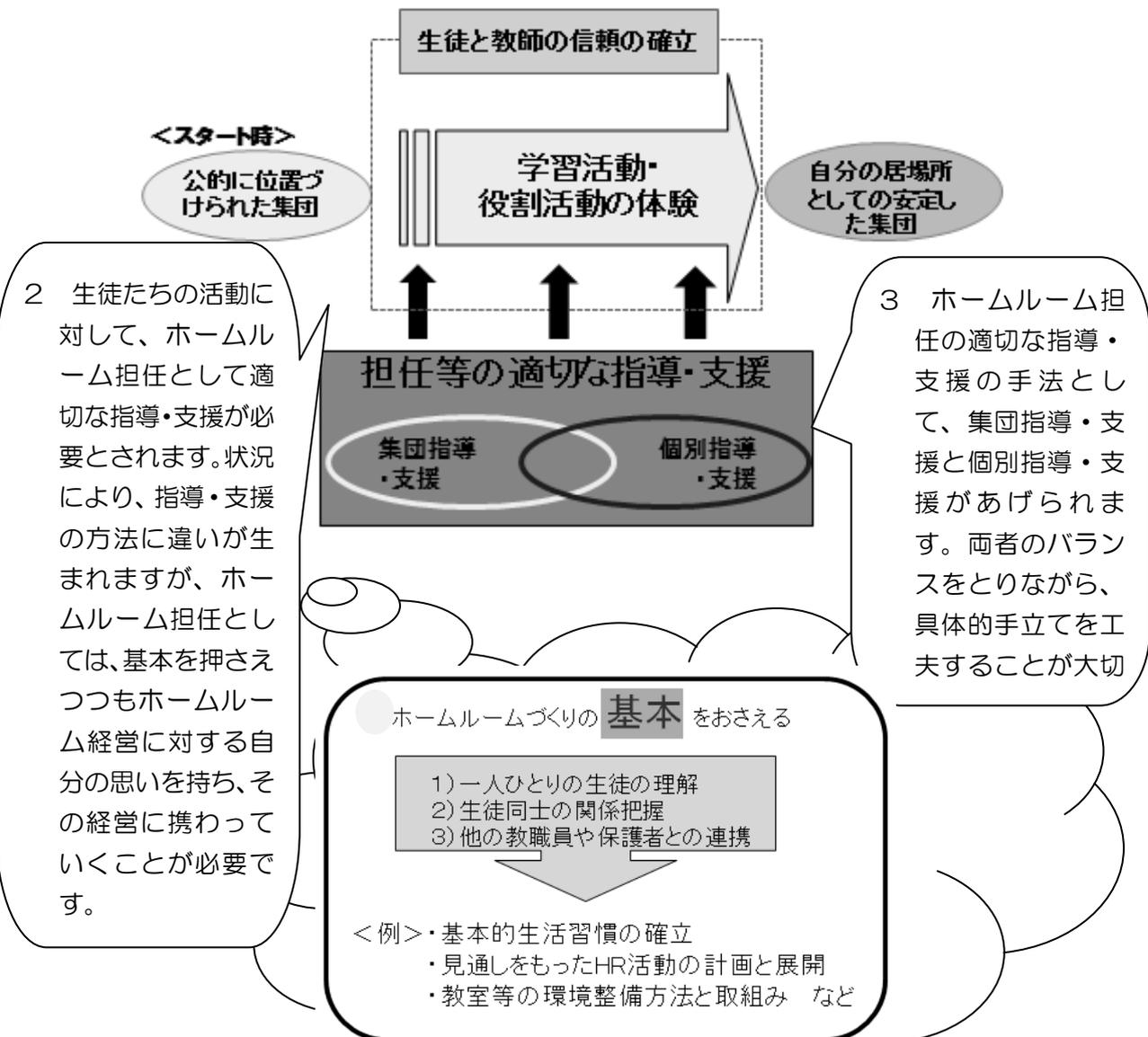
### ○講義・演習の概要

#### 講義

講義では、良好なホームルーム経営の実践報告のあと、下図の「ホームルームづくりのイメージ」を示しながら、いくつかのポイントについて事例を出して講義を展開しました。

1 ホームルームは、生徒たちの学習活動や役割活動や行事への取組み等を重ねる中で、単なる生徒集団から自分の居場所としての意識が持てる安定した集団へと育ちます。

## ホームルームづくりのイメージ



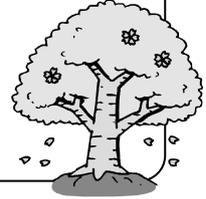
## 演習

### 課題：「高等学校版〈ホームルーム開きチェックリスト〉を作ろう」

新年度、ホームルーム担任として、ホームルームの生徒との最初の出会いを迎えるにあたり、あるいはホームルーム経営のスタートにあたり、様々な準備や取り組み等が必要です。その項目を一つずつあげて、チェックリストにまとめてください。

その際、チェック項目の観点として、次の5点を踏まえてください。

- A：生徒理解                      B：基本的な生活習慣の確立  
C：雰囲気づくり                D：環境整備  
E：担任の思い



※ ホームルーム担任の経験がない初任者は、具体的な項目をあげにくい可能性があるため、「ブレンライティング」という手法を用い、グループで観点別の用紙を回していきながら、気付いたことを書き足していく方法で意見を集めた。その集まった多くの意見の中から、各自が自分の「ホームルーム開きチェックリスト」を作成した。

( ) 分科会 ( ) グループ

観点〈A：生徒理解〉 その1


( ) 分科会 ( ) グループ

高等学校版〈ホームルーム開きチェックリスト〉 その1

観点	チェック項目

### ○講義を受けたことで変わったこと

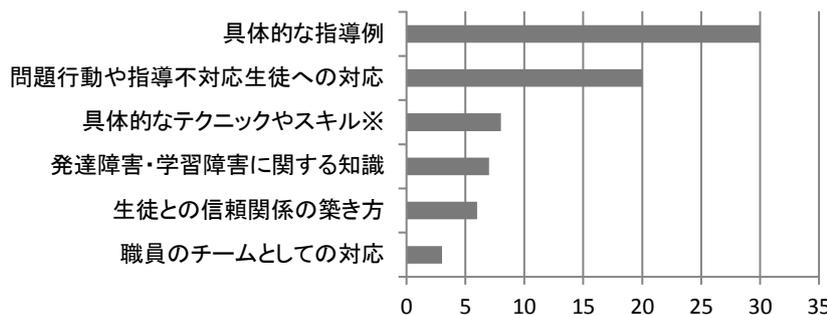
(受講者振り返りアンケートより)

- ・ホームルームは作っていく(創っていく)ものであるという視点。
- ・個別指導と集団指導の関連性とその波及する効果を学んだ。個別指導が生徒の主体性を生み、集団指導につながることもあることを知ることができた。
- ・ホームルームづくりのイメージ図について理解した。個別指導が全体(集団)指導へつながることもあることを知った。
- ・「学校組織の中のホームルーム」であると感じた。そのような意識が今までなかった。
- ・「高校は生徒との関係はドライなのは当たり前」と、学校の雰囲気から感じていたし、そうするものと考えていたが、もっと生徒と関わって盛り上げていいのだと分かった。
- ・指導、支援とは頭髪指導などだけでなく、行事などのプラスの指導もあること。
- ・見通しをもった計画的なホームルーム活動が、より良いホームルーム経営につながることを感じた。
- ・「半年、1年経った時に、ホームルームを安心できる場所にする」ということを学んだ。
- ・「ロングホームルームは担任の負担だ」という言葉を聞いたことがあったが、私は絶対にそんな風になりたくないと思う。現在、副担任として関わっているクラスの担任は、どのような信念でクラス経営をしているのかを聞いてみたいと思う。

## 校内研修テーマ：「ホームルーム経営の工夫」

### ○課題

4月の初任者研修のアンケートの中で、「総合教育センターの生徒指導に係る研修講座で、今後あなたが学びたいと思うのはどのようなことですか？」という質問に対し、自由記述の回答を、主だった項目にまとめたものが下のグラフです。



※コーチング、ロールプレイ、カウンセリングなど

(アンケート回収数：251人)

この回答では、生徒指導に関して初任者が特に気になっているのは、具体的な指導例、特に、問題行動等への対応であることであり、ホームルームに関する記述はほとんど見当たりませんでした。このことから、4月の初任者にとって、「ホームルーム経営」そのものに関する意識は非常に希薄であることが分かります。初年度からホームルーム担任を担当している初任者はいないことを考えると、それも仕方のないことです。

しかし、1月の初任者研修での最終アンケートでは、ホームルーム経営に関する具体的なノウハウを切望しているといった状況が見取れました。新年度の担任業務がまさに、自分自身の課題となったことが推察されます。

勤務校では、日ごろ、身近にたくさんのホームルーム担任が特徴ある経営をしているはずなので、少し意識を持って、そのホームルーム担任を観察するだけでも多くの学びの機会を持てるはずで

各学校では、4月から1月までの適切な時期に無理のないペースで、各学校の状況にあったホームルーム経営の在り方を考える機会を用意されることが望まれます。

### ○身に付けて欲しい力や考え方

- 生徒一人ひとりにとって居心地のよいホームルームというものは、自然発生的に生まれるのではなく、ホームルーム担任による「ホームルームを経営する」という主体的姿勢が必要です。
- 各学校でのホームルーム担任の経営の状況を観察したり、あるいは共に行動する機会を持ったりして、ホームルーム経営の意義や具体的なテクニックをつかむきっかけとしてください。
- 新ホームルーム担任として、初めてのホームルーム開きに向けて心構えや必要な準備について考えましょう。

その1

「広い視野に立ったLHR指導計画づくり」

【ねらい】 学校の教育目標や学校行事、学年の取組みなどを考慮しながら、ホームルーム担任の考えを反映させたLHRの具体的な指導計画を立案する。

- 1 LHR年間指導計画のうち、全校のクラス・同一学年のクラスで統一の取組みを実施する日程を確認する。(事前に担当グループなどの準備や調整が必要です。)
- 2 LHR年間指導計画のうち、上記「1」で示された日程を除いた、各クラスに運営を任されるLHRの日程を確認し、その時間の指導計画を考える。
- 3 上記「2」に関する各クラスの指導計画について発表する。発表にあたり、指導計画の目的、時期、手法等を明確にする。

その2

「コミュニケーションツールとしての『ホームルーム日誌』づくり」



【ねらい】 形骸化してしまいがちなホームルーム日誌が、ホームルーム経営の有効なツールとなるようにその様式を工夫する。

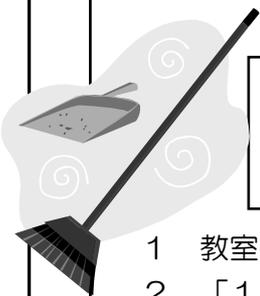
- 1 「ホームルーム日誌」をホームルーム経営に有効活用しているホームルーム担任から、その運営や活用状況についての具体的な話を聞く。
- 2 「1」の内容を踏まえて、次の点についてグループ討議を行う。
  - ①ホームルーム担任が「ホームルーム日誌」から得たい情報
  - ②生徒が①について記述しやすい様式の工夫
  - ③クラスの中での効果的な運用方法
- 3 「2」に従って、「ホームルーム日誌」の様式をグループごとに作成する。

「生徒理解につながる清掃時間の活用」

その3

【ねらい】 教室の清掃方法をクラス全員に定着させ、全員で協力してよい学習環境を整えるとともに、清掃活動も、教師と生徒間の信頼関係構築の機会となることを確認する。

- 1 教室の学習環境が、常に整っているクラスの清掃状況を参観する。
- 2 「1」の状況を踏まえて、次の点についてグループ討議を行う。
  - ①教室の清掃方法の手順
  - ②黒板の手入れ方法
  - ③ごみ箱の活用方法
  - ④清掃用具の種類と数
  - ⑤清掃当番のローテーションの仕方等
- 3 「2」の討議内容を踏まえて、自分が担当するクラスの清掃の取組みに関して立案する。
- 4 清掃活動を実践するにあたり、生徒理解に関する配慮事項等について討議する。



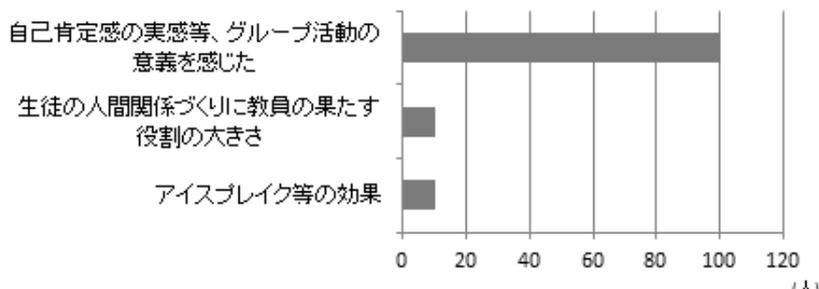


○講義を受けたことで変わったこと (受講者振り返りアンケートより)

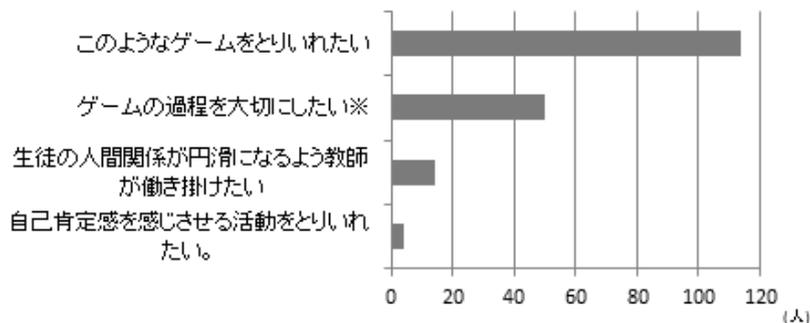
※自由記述での回答結果を、主だった項目にまとめ、下のグラフに表しました。

(アンケート回収数 237 人)

Q この講座を受けてイメージや考え方が変わったことは？



Q この講座を受けて明日からの実践に生かしたいことは？



※ゲームの過程として、話す、聞く、役割分担、振り返りなど

○講義・演習を受けたことで変わったこと (受講者振り返りアンケートより)

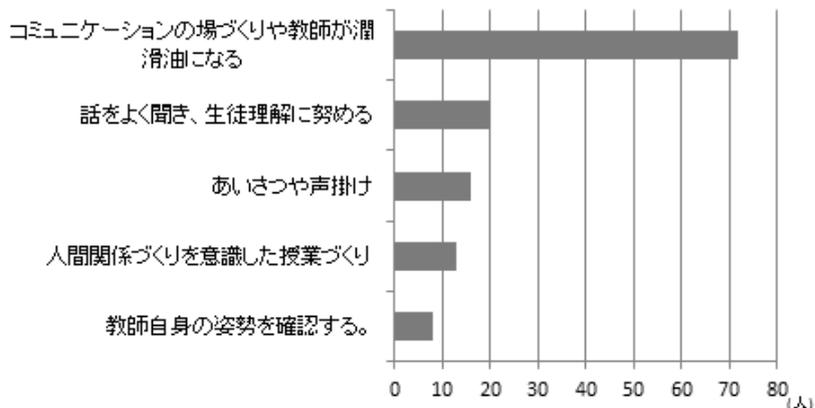
- ・グループ活動は協調性や一体感が生じる。
- ・生徒が勝手に人間関係を作るだけでなく、教師が人間関係づくりの場の設定をし、きっかけをつくることもできるということ。
- ・人間関係は信頼関係を作ることから生まれる。その信頼関係をつくる一歩はコミュニケーションだと思った。
- ・グループで協力すると、一人では出ないアイデアが出るということ。
- ・「コミュニケーション能力」と聞くと、ただ会話をするだけというイメージだったが、グループで協力して課題解決を目指すという具体的な活動をイメージすることができた。
- ・これから文化祭があるが、生徒が積極的にならずクラスの出し物が決まらないので、グループワークを取り入れてみようと思った。
- ・今日、自分が気付いたことを生徒にも気付かせたい。同じようなグループワークを総合的な学習の時間などで取り入れたいと思う。
- ・「熱中できること、協力できること、学び合うこと」を生徒に体験させていきたい。
- ・自分で考えることが大切なので、授業中に生徒に考えさせる時間を多く持たせたい。
- ・この講座でやった内容を言語活動として取り入れていきたい。



## 校内研修テーマ：「グループワークで育てる生徒の人間関係」

### ○課題

Q 「生徒相互の好ましい人間関係の育成」に向けて、どんな取組みが考えられるか？



(アンケート回収数 237 人)

- 前ページの研修終了後のアンケート結果をまとめた上記グラフでは、「コミュニケーションの場づくりや教師が潤滑油になる」という意見が多数であることが分かります。このことから、生徒の人間関係づくりに向けて、教員による何らかの積極的な関与が可能であることが実感できました。その方法として、日常の声掛けやあいさつはもちろんですが、今回のようなグループワークなどの方法を更にマスターし、その時の目的にあった活用ができるかどうか課題といえるでしょう。
- 採用2年目の教員は初めてのホームルーム担任を持つことが多く、それに関する業務が増え悩みや迷いも多くなります。特に、生徒同士の人間関係は、ホームルーム経営に大きく影響するものです。初任のうちから、人間関係づくりについての研修を実施してみましょう。
- 特にホームルーム担任として、4月の新クラスがスタートした時期における仲間づくりや、長期休業後のホームルーム経営においてグループワーク等の活用を考えてみましょう。

### ○身に付けて欲しい力や考え方

- 様々なグループワークの方法を身に付けることを通して、各グループワークが生徒同士の人間関係づくりにどのような効果があるのか、また、どのような場面で活用すると良いのか、等について教員同士で、意見交換できると良いでしょう。さらには、生徒同士の人間関係づくりに果たす教師の役割やその活動を適切に進行する技術について考えてみましょう。
- 先に紹介した冊子に掲載のグループワークの方法に対して、各学校や各クラスの状況を反映させたオリジナルの工夫を考えるなど、各学校の教育活動での活用を考えてみましょう。

#### 常備しておきたいグループワークグッズ (例)



鐘、



タイマー、



はさみ、

油性カラーペン、  
付箋、模造紙 など

## ○校内研修への提案

### グループワークの実践と

### ホームルーム経営への活用を考えてみよう

【ねらい】 生徒同士の人間関係づくりを目的としたいくつかのグループワーク用アクティビティの効果的な活用方法を考える

- ①先に紹介した『楽しく進めるグループワーク ～個と集団の気づきをうながす～』（神奈川県青少年指導者養成協議会）に掲載されているアクティビティのいくつかを実践してみましょう。
- ②1年間のホームルーム経営の中で、どのアクティビティをどの時期に行うことが効果的かを考えてみましょう。また、教科指導、生徒会活動、部活動等への活用についても考えてみましょう。

※「体験学習」としてのグループワークは、机上で行う「コミュニケーションゲーム」と「コンセンサスゲーム」、体を動かして行う「イニシアティブゲーム」の3つに分類されます。

「コミュニケーションゲーム」とは、・・・情報や意志の伝達を通して、コミュニケーションの難しさや大切さを学ぶグループワーク。

「コンセンサスゲーム」とは、・・・コンセンサス（全員の合意）に至る過程で起こるさまざまなことから（メンバーの参加の仕方、コミュニケーションやリーダーシップ、グループの雰囲気、他者の価値観の理解）、グループ全員が合意することの難しさ、大切さなどを体験的に学ぶグループワーク。

「イニシアティブゲーム」とは・・・小グループ（5～10人）が、1人では解決できない精神的・身体的課題に対して、一人一人が持っている諸能力を出し合い「知恵」と「勇気」と「協力」のもとにその課題を解決するグループワーク。



### 「県立青少年センター指導者育成課」からの情報提供

○県立青少年センターが実施している研修やイベント、冊子についての情報が掲載されています。

<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f100221/>

○平成23年度「楽しく進めるグループワーク ～個と集団の気づきをうながす～」  
今回使用したコンセンサスゲームの他さまざまなアクティビティが掲載されています。

<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f100221/p449701.html>

○平成22年度「どこでもアウトドア 初心者におすすめ！自然体験活動の手引き」  
デイキャンプ等での野外炊事やさまざまな自然体験活動が掲載されています。

<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f100221/p304597.html>

## 講義 「生徒指導グループとの連携 個と全体の生徒指導」

○研修のねらい 教員一人ひとりが行う日常的な「個の生徒指導」と生徒指導グループを中心とした「全体の生徒指導」とのつながりを理解し、効果的な生徒指導の在り方を理解する。

### ○講義の概要

本講義は、生徒指導グループリーダーの経験がある県立高等学校の総括教諭に担当していただきました。

まず、神奈川県教育委員会「生徒指導ハンドブック」により、生徒指導の定義が確認されました。

「個の生徒指導」と「全体の生徒指導」をつなぐものが、各学校で設定している「生徒指導基準（内規）」です。これを理解して生徒指導にあたるということは、問題行動等の未然防止の観点からも非常に大切であることが説明されました。これは、初任者であっても例外ではありません。

授業やホームルーム、部活動等の日常生活において実践されるのが「個の生徒指導」でしょう。「個の生徒指導」においては、生徒理解が基本となります。一人ひとりの生徒が困っていることは何なのか、そして何を求めているかを、あなたは気付くことができているでしょうか。

次ページに掲載したく生徒理解を踏まえた「気付き度」診断＞を確認してください。日常の生徒指導の実践では、ここに挙げた点が要点といえるでしょう。特に、毅然とした姿勢を示さなくてはならないような場面こそ、深化した生徒理解の在りようが問われると言えるでしょう。

### 1 生徒指導とは

#### (1) 神奈川の生徒指導ハンドブック

- ① 自己指導能力の育成
- ② 集団生活を円滑にこなせる資質や能力
- ③ 自己の責任と判断で行動できる
- ④ 毅然とした指導と個に応じた指導
- ⑤ 生徒理解 生徒の課題
- ⑥ 教員間の共通理解
- ⑦ 問題行動への指導の基準や手続き

#### 2-(2) 「個の生徒指導」と生徒指導グループがうまく連携するために

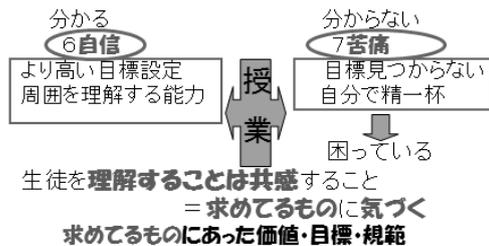
(7) 生徒指導基準が理解できている  
個の指導と全体の指導が一致  
= ぶれない指導

↓

頼りになる先生  
初動がしっかり出来る  
指導の発端に気付け、問題行動予防になる

→ 「特別指導の位置付け」を知っておく

### 3 個の生徒指導のための生徒理解



#### 3-(3) 個の生徒指導の実践

- ◆ 小さな変化を気付いて傾聴する  
支援と安心
- ◆ 毅然とした姿勢（叱る）  
規律と信頼
- ◆ 絆と居場所作り  
学校は家族と同様大切な居場所

### ＜生徒理解を踏まえた 「気付き度」 診断＞

- 生徒の名前と顔が一致する。
- 生徒一人ひとりについて授業への取組み状況、テストの点数や理解度、ノートの提出状況等を思い浮かべることができる。
- 「うちの生徒は・・・」（否定的な内容）と言わないように心掛けている。
- 2日連続して欠席した生徒には、「どうしたの?」と声をかけている。
- 授業中、寝ている生徒には声をかけている。
- 授業中の私語や携帯いじりには気付き、何らかの指導をしている。
- 自分が話す時は、生徒が話すのをやめてから始めるようにしている。
- 生徒一人ひとりの癖や性格を捉えるのが得意である。
- 「静かにしろ」は言わないようにしている。
- 生徒の目の表情やノートの字体など微妙な変化を気にするようにしている。
- 勤務校の生徒指導基準（内規）を理解している。
- 校内でトラブルがあった時、すぐに駆けつける方だ。
- 生徒に話をするより、まずは生徒の話を聞くようにしている。
- 生徒の話に感心したり、学んだりすることがある。
- 生徒との対応で終わりとせず、次の対応を想定している。

### ○講義を受けたことで変わったこと （受講者振り返りアンケートより）

- 生徒指導は指導グループに任せていけばよいと思っていた。教員一人ひとりが個の生徒指導力を付けなければいけない。
- 生徒指導の内規があることは知っていたが、きちんと読んでいなかった。まずはしっかり読んで、学校としての方向性を確認し、それをもとに指導にあたりたい。
- 生徒指導を行う上で、どのように対応するべきか判断できないことが多かったが、生徒指導基準を読んでいない自分に責任があることが分かった。
- 「この学校の生徒は・・・」とよく文句を言っていたので改める。分からない授業は生徒にとって苦痛であり、生徒は「困っている」ことがよく分かった。
- 学校全体で共通した基準で指導していくことが大切だと思った。
- 授業が生徒指導に大きく関わるということが分かった。
- 指導は後手に回ってはいけない。その場の指導は当たり前であり、その先の指導も考えられるようになりたい。
- 生徒指導は問題を起こす生徒に対するものだけでなく、学校生活全体を通して行うものだということが分かった。
- 気づいた時にすぐ声を掛けること、説明責任を果たしていくことが大切だとわかった。
- 私は生徒指導グループなのですが、最近、グループの他の教員との意思疎通が大変大事だと感じています。やはり、学校全体で生徒指導に取り組むことが大切だと思いました。

## 校内研修テーマ：「生徒指導基準（内規）等に関する研修」

### ○課題

生徒指導の基盤は「生徒理解」ですが、それを深めるためには校内でどのような取組みが必要かを考えてみましょう。

また、一人ひとりの教員は組織の一員として、「生徒指導基準（内規）」のもと、「全体の生徒指導」と「個の生徒指導」とが一致することで、ぶれない生徒指導が実現することを確認しましょう。

### ○身に付けて欲しい力や考え方

#### ・生徒理解

生徒を理解することは、生徒が共感できることや生徒が求めていることに気付くことです。

#### ・勤務する学校の生徒像の理解（生徒の現状、指導の目的、方針、育てたい生徒像）

自校の「生徒指導基準（内規）」を必ず読み、自分自身の生徒指導に対する姿勢を確認しましょう。

#### ・「個の指導」と「全体の指導」の一致

教員間で共通理解し、組織の一員としての自覚をしっかりと持ちながら、ぶれない指導を心掛けましょう。

#### ・生徒や保護者との信頼関係の確立と説明責任

まずは寄り添い、共感し、信頼関係づくりに努めるとともに、説明責任の重要性を理解し、原因、問題、課題を明確にすることに努めましょう。

### ○校内研修への提案

#### その1

### 頭髪や制服等に関する校則の指導について

- 1 頭髪や制服等に関する校則の意義を協議してみましょう。
- 2 「1」で確認した意義について、生徒へ説明する際の説明の仕方を検討してみましょう。そして、それについてロールプレイングを行い、それを観察して、感想などを出し合ひましょう。
- 3 頭髪や制服等に関する校則の指導方法について検討してみましょう。
  - ①頭髪や制服等に関する校則の指導方法として、考えられる方法を付箋に記入していく。（付箋1枚に1つ）
  - ②付箋を整理し、各指導方法のメリット、デメリットを確認する。
  - ③本校の実態を考えあわせて、本校における効果的な指導方法を探っていく。



## その2

### 生徒指導上の事例について、 その対応を考え協議しよう。

#### (事例)

1年の男子生徒Aは、2年の男子生徒Bの日ごろの行動や自分への接し方に対し不満を抱いていた。その理由は、体力的には弱そうなのに威張っている、貸した漫画を返さない等、些細な出来事の積み重ねであり、要するに「気に食わない」先輩であった。

Aが不満を抱いていることを知った2年の男子生徒Cが両者をけしかけ、「話し合い」で決着をつけることになった。AがBに呼び出される形で学校近隣の人気のない場所に出かけた。数百メートル距離を置いて、A・B双方の友人も見に行った。上級生のBは「何か文句があるのかよ」と切り出したが、手は出さなかった。Bは実際にはケンカに自信がなかった。しかし、Aから「震えてますよ」などと何度か挑発されるうちに、引っ込みがつかなくなりBが先にAの胸ぐらをつかんだ。続いて殴ろうとしたがうまくかわされ、逆に数発こぶしで殴りかえされてしまった。そのうちの1発が顔面をとらえ、Bは歯が欠けるほどの怪我を負った。

そこへ、偶然、車が通り、Aはすぐにその場から逃げた。遠くから取り巻いていたA・B、双方の友人らも逃げ去ってしまった。Bはしばらくうずくまっていたが、自力で学校に戻り、保健室にやってきたので、事態が判明した。

弁明としてAおよびAの保護者は、「先に手を出したのは、向こうであり、こちらには反省すべき点はない」したがって「罰であっても、指導であっても特別指導は受け入れられない」と主張し続けていた。

#### 協議事項

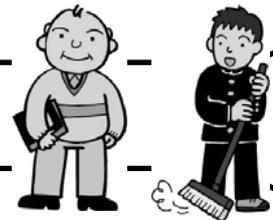
- 1 この事例について、生徒A、B、C、その他の生徒のそれぞれの関わり方を整理し、各学校の「生徒指導基準（内規）」を確認した上で、それぞれにどのような指導をすることが適切か、検討してみましよう。
- 2 生徒AおよびAの保護者にはどのような対応が考えられるか、検討してみましよう。
- 3 「1」の指導内容を受けて、生徒A、B、C、その他の生徒の各ホームルーム担任は、それぞれの生徒に対してどのような指導、あるいは関わり方が必要か、検討してみましよう。

## 講義・演習「生徒理解のための対話」～共感的な対話による生徒理解～

○研修のねらい 教員が生徒理解を深め、また、生徒が自己肯定感を高めながら主体的に自己理解を深めていくような「共感的な対話」を知ることで、ホームルーム担任、教科担任として生徒と関わる力を身に付けることをねらいとする。

### ○身に付けて欲しい力や考え方

- ・対話を通して、生徒の思いを肯定的に受け止め、問いかけによって気づきを促し、生徒が主体的に自己理解を深められるような「共感的な対話」について学びます。
- ・模擬事例やロールプレイングを通して、共感的な対話となるような応答を考えることで、実際の場面で活用できる力を身に付けます。
- ・対話を継続的に積み重ねることで、教員の生徒理解も深まり、生徒の自己理解も深まっていきます。生徒理解の深化は信頼関係の土台であり、生徒が自己理解を深めていくことは生徒の課題解決能力の向上へのきっかけとなります。



### ○講義の概要

- 1 共感的な対話とは、指導的に助言を行うのではなく、受容と問いかけによって生徒自身が答えを出していくものです。  
共感的な対話のキーワード：傾聴、受容、肯定、支持、共感、問いかけ
- 2 第1段階の対話のねらい：対話を通して、自分の思いや考えを誰かと共有する体験を積みみます。「理解してもらった」、「そう思って良いんだ」と思える体験が『自信』や、『自己承認』につながります。→『自己肯定感』を高めていきます。
- 3 第2段階の対話のねらい：対話を通して自分に向き合い、『自分の考え方の傾向』や『自分の得意・不得意』を知ります。→『自己理解』を深めていきます。
- 4 タイプ別の配慮
  - よく話す生徒：話題が広がらないよう、優先事項を整理していくことで、対話の深まりが得られ、分かってもらえたという実感を持てます。
  - あまり話さない生徒：待つことで、話せた、待ってもらえたという成功体験ができます。『今は保留』も認めましょう。
- 5 体験しましょう  
場面を設定して応答を考えます。様々な立場でロールプレイを行い、共感的な対話を体験します。

## ○講義を受けたことで変わったこと

(受講者振り返りアンケートより)

- ・聴いてくれている、気にかけてくれているという雰囲気が会話の中で感じられるというのを感じた。
- ・傾聴してうまくいくのも、やはり日々の生徒との人間関係の積み重ねの上に成り立つように感じた。
- ・生徒との会話には時間をかけるよう注意を払っているが、生徒の状態を引き出すような事柄を語りかけることが大事で、また時間を決めて話すことも大事だということがわかった。
- ・ロールプレイングを通して、反抗的な態度を取る生徒も怒っているだけでは無いのだと感じた。
- ・自分の考えを伝えたいという気持ちが強くなってしまいがちですが、しっかりと共感的に聴くことがとても大切だと感じたので、会話のポイントを意識していきたい。
- ・一回の対話で全てを解決させる必要が無く、複数回積み重ねることで、より理解が深まることを知った。
- ・何気ない雑談が意外と大切で情報源であるということを知った。
- ・生徒の相談には必ず何か適切なアドバイスをしなくてはならない気がしていたが、もっと聴くことに重点を置こうと思った。
- ・教師は常に生徒に『指示』するのではなく、『支持』するという理解は新鮮だった。サポート者としての自覚も高めていきたい。

### 明日からの 教育実践へ

## 生徒と対話をしよう！

- ①まずは何気ない「ひと声」から！
- ②「共感的な対話」を積み重ねよう！
- ③対話を振り返り、次の対話にいかそう！

### リンク先

- ・「生徒の自己理解を促す 共感的な対話」（平成 24 年度研究成果物）  
総合教育センターホームページよりダウンロード
- ・小林昭文著 2004 年「担任ができるコミュニケーション教育」  
(ほんの森出版)
- ・斎藤清二・西村優紀美・吉永崇史著 2010 年  
「発達障害大学生支援への挑戦」（金剛出版）



○校内研修への提案

その1

共感的な対話について知ろう

- ・冊子『生徒の自己理解を促す 共感的な対話』を使って、共感的な対話について知りましょう。



※総合教育センターHPよりダウンロードできます

その2

生徒との共感的な対話を想定した  
ロールプレイングを体験してみよう

- ・冊子『生徒の自己理解を促す 共感的な対話』中の対話例を使い、ロールプレイングをしてみよう。
- ・シナリオを考えて、共感的な対話を体験してみよう。  
生徒役と、教員役になって場面を設定して、ロールプレイングを体験します。

※観察者がいることも大切です。実施後、観察者と共に振り返ってみてください。

〈上記冊子「生徒の自己理解を促す 共感的な対話」より抜粋〉

共感的な対話とは

◎「答える」のではなく「応える」

◇答えを伝えるのではなく、気持ちに応える。



◎「受容」＋「問いかけ」によって生徒が答えを出していく

◇指導的に助言を行うのではなく、生徒の思いを肯定的に受け止めながら聴き、問いかけによって、生徒が自分で答えを出していく。

◎生徒の語りの「再構成」

◇生徒本人の中に「気づき」や「変化」を促し、持っている力や可能性を引き出す。

◇生徒本人が語るストーリーを前向きな捉えに「再構成」する手伝いをする。

「共感的対話」のキーワードは…

傾聴

共感

受容

支持

肯定

問いかけ

## 「共感的な対話」の第1段階 対話の土台作り

【ねらい】 対話を通して自分の思いや考えを共有する体験を積み、「分かってもらえた」「そう思っているんだ」と思える体験から、『自信』をもち、『自己承認』できる。

『自己肯定感』を高めていく

### 対話のポイント

- 1 話題は何でもあり
- 2 生徒の話肯定的に認めながら聴く
- 3 「受け止めた」というメッセージを伝える
- 4 語られることばの背後にある感情を汲み取る
- 5 話題の側面にも目を向ける



### ※【対話の基本】

傾聴・共感・受容によって安心して語れる場を提供する

## 「共感的な対話」の第2段階 発達援助的な関わり

【ねらい】 対話を通して自分に向き合い、「自分の考え方の傾向」や「自分の得意・不得意」を知る。

『自己理解』を深めていく

### 対話のポイント

- 1 困りを『十分に共有』してから、今できることを一緒に考えていく
- 2 生徒が使った言葉を使う
- 3 生徒の内面を訊く（問いかける）
- 4 話題の明確化・焦点化
- 5 リフレーミング（違う枠組み<sup>フレーム</sup>で見ると）
- 6 とりあえずの方策を具体的に確認し、支持する



### ※【変化をキャッチする】

対話時の態度からも生徒の変容を見る  
教員の「自分の中の変化」を大切にする

【かながわの生徒指導 Ⅲ—③:生徒理解の深化】

講義・演習 「チーム支援とケース会議」

○研修のねらい ケース会議の演習を通して、生徒の理解とチームによる支援についての意義と手法について理解する。

○身に付けて欲しい力や考え方

- ・ホームルーム担任はクラスの生徒に対して責任を持っています。しかし生徒の支援を一人で行うには限界があります。生徒に関わる様々な人と共に情報を共有し、多面的に生徒を理解し、一致した方針の下で対応を考え、役割を分担して支援していく必要があります。
- ・ケース会議の方法を理解し、生徒の支援を進めることができるようにします。また、短時間でも回数を重ねることで、より良いケース会議を行う力を付けることができます。
- ・チーム支援を進めるには、日頃から相談できる雰囲気や声かけができる職場づくりを行うことが大切です。



○講義の概要

講義・チーム支援の意義

生徒の支援が必要な時、担任一人の情報だけでは、不十分です。また、一人で行える支援にも限界があります。そこで一致した方針の下、チームで支援していくことが必要になります。

・ケース会議

生徒に関わる人たちで集まり、情報を整理し、「生徒が困っている」という視点を共有します。困った生徒→困っている生徒への視点の転換をします。一致した方針を立て、明日からできそうな具体的な支援策を考えていきます。

演習・模擬事例によるケース会議

模擬事例を使い、簡易シートを使ったケース会議をグループで行い、ケース会議の手法について理解します。

ケース会議の前に  
参加者全員で必ず  
確認しましょう

ケース会議のルール

困っている生徒の支援を目指していく / 具体的な話し合いにする / 一人だけで話さない /  
他の人の発言を否定しない / 発言は短くわかりやすく多面的な視点から意見を出す /  
共感的に話を聞き、認め合う / いろいろな人が関わることでできる支援策を考える



リンク先

- ・石隈・田村式援助シートによるチーム援助入門—学校心理学・実践編—  
石隈利紀・田村節子著 (図書文化社 2003年)
- ・はじめよう ケース会議 Q&A 総合教育センター平成20年度研究成果物
- ・はじめようケース会議 DVD (総合教育センターカリキュラム開発センターでDVDにコピーできます)

## ○講義を受けたことで変わったこと

(受講者振り返りアンケートより)

- ・ケース会議にネガティブなイメージを持っていたが、複数の先生の意見が聞ける良い機会だと分かった。
- ・何名かの意見を聞くことでさらに考えが広がった。チームを作ることの重要性が分かった。
- ・生徒だけでなく、職員同士のコミュニケーションの大切さを実感した。
- ・シートにまとめることで、その生徒に対する理解度を視覚的に判断できると感じた。
- ・方針を決めて、ぶれないように方策を立てること、チームで取り組む際には入念に共通理解を持つことが必要だと分かった。
- ・以前出席したケース会議では、担任の苦勞が語られ、解決の糸口が見つからなかったが、短期的な具体的方策があると、生徒の支援に向けて前向きに話し合えることができると思う。
- ・担任などの業務を持たされると、どうしても一人で何でもこなさなければならないと思いがちだが、教科担当や部活動の先生と時間を取って会議をするのは有効だと感じた。
- ・一人の生徒についてのケース会議であったが、支援策を考えるに当たって考えていく対象は、親であったり、まわりの生徒だったり本当に多いことを感じた。
- ・ケース会議を行うことで、生徒への対応を共有でき、今後、同じような状況に生徒がならないように予防することもできると思う。
- ・今後の支援を「良いところ」を活用して考えていく、というのが新鮮だった。「支援」というと教師側が生徒のできないことに今まで以上に寄り添ってできるようにする。というイメージが強かったですが、生徒の「良いところ」を今以上に伸ばすと考えると「支援」の具体的なイメージが持てるようになった。

明日からの教育実践へ  
「ケース会議をやってみよう！」



### <具体的な支援につながるケース会議のポイント>

- ・事前に子どもの学習面や生活面などの情報を集め援助シートに書き込んでいくと、児童・生徒の状況を把握しやすくなります。
- ・会議では視覚的に情報を共有できるツールを用意しましょう。例：ホワイトボード、ケース会議シート(次ページ参照) など
- ・ケース会議の前に話し合いのルールを確認しましょう。(前ページ参照)
- ・最初にケース会議の目的や時間配分、終了時間を確認してはじめましょう。
- ・子どもの情報から子どもの良い点、強みをいかして、チーム支援の視点で明日からできそうなスモールステップの具体的な支援策を考えます。
- ・1ヶ月など期間を決めて、取り組みを振り返り、再び次の目標や支援策を考えます。
- ・1回目で支援方針や支援策が決まらなくても、その経験をいかして、次の会議に臨むことで、有意義な会議になっていきます。

ケース会議シート1 (情報のまとめ)

年 男・女 氏名 ( )	第 回	実施日	月	日 ( )
良いところ		学校		
生徒の様子		生徒にかかわる人的資源		
気になるところ				その他
その他 (家庭環境、生育歴、中学校からの情報、進路等の情報)				
現在行っている支援				

苦戦していること	
----------	--

苦戦していることの要因	
-------------	--

ケース会議シート2 (支援方針と支援案)

支援の方針	
-------	--

場	今後の支援	誰が行うか	期間

## 協議 「生徒理解とチームアプローチ」

○研修のねらい 生徒指導に関する現状・課題に関する情報交換と、その対応について理解を深める。

### ○協議の進め方

- ・テーマ：「これからの生徒指導に向けて」  
話し合いの入り口では、各学校の現状紹介をし、その後の話し合いの方向性としては、現状を踏まえた未来志向の姿勢で、テーマに向かって意見交換するように伝える。
- ・話し合いの形式：「ワールドカフェ」  
(1グループは4～5人で編成し、テーブルを周りから囲むように椅子をセットする。)
- ・必要な物品：<全体> 鐘、タイマー（時計）  
<各グループ> トーキングオブジェクト（片手に持てる大きさのぬいぐるみ等）、カラーマジックペン、模造紙
- ・進め方とルール：  
<進め方> ※ファシリテーターが進めていきます。
  - ① 話し合いは約 10 分を3回行う。1回目が終わり2回目に入る時、グループのメンバーのうち1人はストーリーテラーとして、そのグループに残り、他のメンバーはそれぞれ全く異なるグループに移る。2回目から3回目に入るときも同様。2回目、3回目の最初にストーリーテラーは前の話し合いの様子を1分程度で、新メンバーに伝える。
  - ② 3回の話し合いが終わったら、約2分で話し合いの様子を全体に発表する。  
<ルール>
  - 話すときは「トーキングオブジェクト」を手を持ち、持たないときは話してはいけない。
  - 他人の意見は批判しない。
  - 話し合いの中で見出したキーワード等を自分のペンで模造紙に書き込んでいく。

### 「ワールドカフェ」について

「ワールドカフェ」とは、カフェ的なおだやかな空気の中で、参加者がルールに沿って自由に会話を行い、創造的なアイデアや知識を生み出したり、深めたりできる話し合いの方法です。

「ワールドカフェ」では、話し合いの間口を広くしておくことで、自由な発想ができるようにすることが重要です。そのために、テーマは漠然としていた方が幅広い意見を出し易いでしょう。

### 「ファシリテーター」について

「ファシリテーター」とは、集会や会議などで、テーマや議題に沿って発言内容を整理し、発言者が偏らないように順調に進行するように口添えする役とされています。今回の場合も、進行役ととらえます。

## ○協議に参加したことで変わったこと

(受講者振り返りアンケートより)

- ・理想及び具体的な手立てを同僚内で話し合う場を学校内でもっとつくる。
- ・今ならできること、今から取り組んで次年度に続けていくことを明確にすること。「生徒の変容を待つ」という姿勢で、思い切って生徒に任せてみる。
- ・生徒指導は問題を起こした生徒だけに行うのではなく、公平に生徒全員に行うものだとあらためて分かった。
- ・将来を見据えた指導をしていきたいです。
- ・まわりにパスを出し続けようと思う。
- ・「足並みがそろってないからできない」のではなく、自分が教員としてどう向き合いたいかが大切だと思った。
- ・一人で抱え込まず、チームで動くことが自分にとっても生徒にとってもプラスになる。
- ・まずは自分の軸を決めること。
- ・様々な学校の考え方があり、いろいろと考えさせられた。正解はない問題への取組みはいくら意見があっても良いと思った。
- ・たくさんの仲間の意見を聞くことができ、同じようなことで悩んでいた、困っていたりするんだなというのがわかって心強かった。
- ・目先のことだけを考えるのではなく、先のことをしっかり考えて行動する。
- ・人間同士の関わりを大切にすべきであるということ。教員側からも生徒から学べる必要があるということ念頭においていきたい。
- ・同期が生徒指導で様々な困難にぶつかっていることを知った。
- ・経験年数が近いだけあって、とても話の内容にうなずけた。4名の話聞いて思ったことは、担任は大変だけど、やってみることで色々な視点を考えさせられるということだった。試行錯誤しながら、生徒へのアプローチをいろいろ工夫してみたいと思った。

## ※話し合いの手法に関して

### <受講者の意見>

- ・「ワールドカフェ」「トーキングオブジェクト」「BGMの効果」など、新鮮なチームアプローチでした。BGMの効果は授業やHRで活用できそうだと感じた。
- ・「ワールドカフェ」の手法はとても面白かったので、授業に取り入れて行きたい。また、様々な先生の意見を聞くように心掛けたい。
- ・各教員間で意見が異なるが、「ワールドカフェ」形式にすると相手の話を受け止めることができた。

### <ファシリテーターの意見>

- ・リラックスした、くつろいだ雰囲気を出せるだけ高めて対話しやすい空気づくりを心がけた。
- ・ワールドカフェという名称の意味を説明し、一つの答えを求めるものではなく、視野をひろげることを目的とした方法であることを念押しした。
- ・トーキングオブジェクトを握ることでリラックス感が生じ、発言しやすい受講者もいた一方、持つことに照れを感じる受講者もいたことから、トーキングオブジェクトの意味合いについてもっと説明が必要だった。
- ・生徒指導の内容や視点が、学校により千差万別であることに気付いたり、驚いたりしている様子が多く見受けられ、この手法の有用性を感じた。



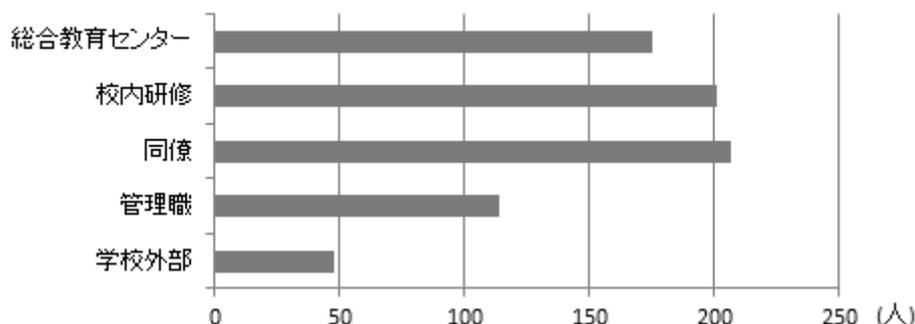
○課題

「生徒指導が大変ではない学校」、「生徒指導が必要ない学校」という表現をする教員が時折います。しかし、生徒指導は、生徒の人格の完成をめざし、一人ひとりの自己実現に向けた自己指導能力の育成をその目的とする教育活動なのですから、「生徒指導が大変ではない学校」や「生徒指導が必要ない学校」があるはずはありません。ただ、各学校が力を入れる部分や具体的な指導の方法等は、その学校の状況により異なるのは確かなことです。

各学校が生徒指導のどんな部分に注目し、力を入れて進めていくべきなのかについて、日々関わっている生徒の様子をしっかりとらえ、意見交換の場を設けることで、その学校の生徒指導の在り方の方向性が見えてきたり、具体的な取組みを進めるためのパワーが充電されたりするのではないのでしょうか。

下図は総合教育センターが初任者に実施したアンケート結果を示したものです。これによると、生徒指導について、初任者が校内研修に寄せる期待は非常に大きいことが分かります。その理由は、各学校の実態を踏まえたテーマや事例が設定できたり、何より身近な同僚の先生方の意見や考え方を確認できたりするためでしょう。是非、活発な校内研修を展開してください。

Q 生徒指導に関する知識や技術をどのようにして学んでいこうと考えていますか？  
(アンケート回収数：251人)



○身に付けて欲しい力や考え方

- 校内研修の活発な意見交換により、同僚性を高めることが、その後の具体的なチームアプローチを取り入れやすい雰囲気生まれることが期待されます。
- 「生徒指導」というと、とかく、問題行動や教育相談の部分だけをイメージしやすいが、各学校の生徒の実態を十分に踏まえ、さらに伸ばしていきたい力や、新たに開発していきたい分野などにも着目します。生徒の自己指導能力の育成や自己実現に向けた指導の在り方を検討することで、学校の実態に即した生徒指導の在り方の研究が進んでいくことが期待されます。
- 若手教員が今後、さまざまなタイプの学校への勤務の可能性のあることを考慮し、若手教員育成の視点に立った校内研修の実現が期待されます。

## ○校内研修への提案

＜校内研修の第一歩

### ：生徒指導に関する校内研修のテーマをみつけよう＞

※協議には様々な方法がありますが、ここでは三つの方法をご紹介します。

#### その1「ブレインストーミング→KJ法」

①ブレインストーミングで、意見を発散する。例えば、「本校の生徒指導に関して、職員全体で考えたいこと」というテーマを設定し、一つの意見を1枚の付箋に書いていく。

※「ブレインストーミング」とは？・・・参加者が気楽な雰囲気の中で固定観念を排除し、自由な思いつきやアイデアを出し合う方法。

②集まった付箋をKJ法に従って整理する。

※「KJ法」とは？・・・様々なアイデアをカードに記入し、それらを共通のものでまとめていき、新たな仮説等を発見しようとする手法。

#### その2「ワールドカフェ」

＜テーマ例＞

「▽○高校にとって、生徒指導とは？」 「生徒指導について、今、考えていること」  
「生徒指導って何だろう」

※取組方法は「協議『生徒理解とチームアプローチ』」をご覧ください。

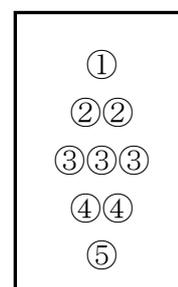
#### その3「ダイヤモンドランキング」

①生徒指導の具体的な取組みとして9項目をあげる。全体的話し合いの中から9項目を探し出すことも可能だが、研修会主催者などで決めておくことも可能。

②9項目の優先順位（右図のようにダイヤモンド型にランキング）を個人で考える。

③4～5人で1グループを作り、優先順位のグループ案をつくる。その際、そのように考えた理由も併せて考える。また、その話し合いでは、多数決などは行わず、説得と納得を原則とする。

④最後に全体で共有する。



＜ダイヤモンドランキング＞

## 初任者がさらに望んでいる研修とは？

平成24年度初任者研修講座高等学校の最終の研修日において実施したアンケート結果によると、1年間に実施した総合教育センターの「生徒指導」に係る研修の他に、受講者が更に学びたいと答えた「生徒指導」関係の内容のうち、記述が多かったものは次の項目でした。

- 部活動における生徒指導
- 対応が難しい生徒（無視、反抗等）に対する指導方法
- 学習障害などを伴う発達障害について
- 生徒への具体的対応の仕方（叱り方、質問の仕方、納得させる話し方等）
- ホームルーム経営に関する、より具体的な取組みについて
- 携帯電話やオンライン等によるいじめについて

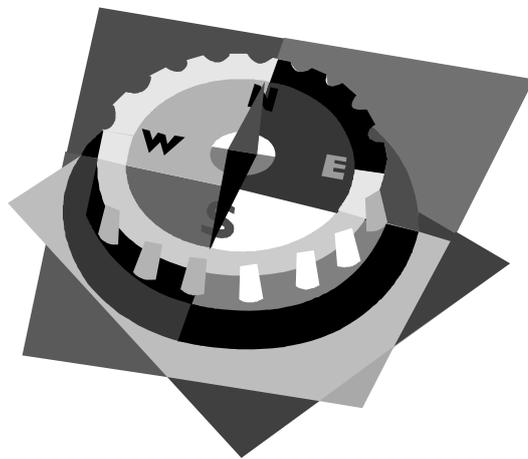
等

平成 24 年度初任者研修講座（高等学校）生徒指導プログラム

	講座名	講師
総論	【かながわの生徒指導 総論-1】 講義「『かながわの支援教育』を基盤とした 生徒指導の在り方」	総合教育センター 指導主事
	【かながわの生徒指導 総論-2】 講義「これからの生徒指導」	大学教授
Ⅰ	【かながわの生徒指導 Ⅰ-1】 講義「授業における生徒との信頼関係づくりの工夫」	総合教育センター 指導主事
	【かながわの生徒指導 Ⅰ-2】 講義「保護者との連携と対応」	総合教育センター 指導主事
	【かながわの生徒指導 Ⅰ-3】 実践報告「一人ひとりの生徒を生かした ホームルーム経営の実践」	県立高等学校 教頭
	【かながわの生徒指導 Ⅰ-4】 講義・協議「ホームルーム経営の基礎」	総合教育センター 指導主事
Ⅱ	【かながわの生徒指導 Ⅱ-1】 講義「問題行動等の未然防止を中心とした 児童・生徒理解の在り方」	学校支援課 専任主幹・ 指導主事
	【かながわの生徒指導 Ⅱ-2】 講義・演習「生徒同士の間関係づくり」	県立青少年センタ ー指導者育成課 職員
Ⅲ	【かながわの生徒指導 Ⅲ-1】 講義「『かながわの支援教育』と教育課題 ～不登校対応について～」	総合教育センター 指導主事
	【かながわの生徒指導 Ⅲ-2】 実践報告「生徒指導グループとの連携」	県立高等学校 総括教諭
	【かながわの生徒指導 Ⅲ-3】 講義・演習「生徒理解のための対話」	総合教育センター 指導主事
	【かながわの生徒指導 Ⅲ-4】 講義・演習「チーム支援とケース会議」	県立高等学校教育 相談コーディネ ーター総合教育セン ター指導主事
Ⅳ	【かながわの生徒指導 Ⅳ-1】 実践報告「組織的な生徒指導を実践するために」	県立高等学校 生徒指導グルー プ総括教諭、教諭
	【かながわの生徒指導 Ⅳ-2】 協議「生徒理解とチームアプローチ」	総合教育センター 指導主事

# 第3章

## 校内研修実践



教員の世代交代が急激に進むなかで、職場におけるOJTは教員のスキルアップの有効な方法となります。そこで、経験の浅い教員の生徒指導の力量向上につなげるための校内研修の在り方について研究を行うため、釜利谷高校、橋本高校、藤沢工科高校の3校に生徒指導研修プログラム開発モデル校を依頼しました。そして、この3校には「組織的な生徒指導を実践するために」というテーマで実践報告をお願いしました。

研修の実施にあたっては、経験の浅い教員がそれぞれ抱える生徒指導上の課題意識はどこにあるのか、生徒指導の知識や技能をどのような手だてで学ぼうとしているのか、各モデル校でアンケート調査を実施し、それを踏まえて各学校のニーズに対応するテーマを設定しました。

この章では、生徒指導研修プログラム開発モデル校での実践例を通して、学校現場で行う効果的な研修の在り方を考えます。それぞれの学校において、教育力を向上させるための校内研修づくりの指針として活用してください。

# 若手教員が協働体制を築く研修

## 「組織的な生徒指導」と「若手教員の育成」という観点による取り組み

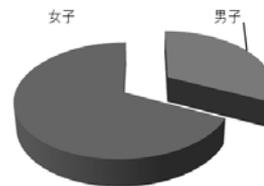
### 学校の概要について

平成21年度よりクリエイティブスクールとなる。学習意欲を一層高め、基礎学力や社会性を身に付けるための様々な仕組みを取り入れている。

#### ■生徒数(平成24年度)

	1学年	2学年	3学年	合計
男	81	83	90	254
女	201	180	157	538
合計	282	263	247	792

#### ■生徒男女比



※平成21年度以降、女子の生徒数が男子の倍以上となる傾向が続いています。

#### ■クリエイティブスクールとしての取り組み

- 社会生活における協働の意識を高める工夫 ⇒人間関係づくりプログラム「SSE」57ページ参照
- 自らの生活を考え、高校生活への意識を高める工夫 ⇒「准担任制」61ページ参照

#### ■生徒指導に係る課題解決力向上及び人材育成のための取り組み

- 若手教員による若手教員のための校内研修 ⇒「ファースト・キャリア・ステージ研修会」62～63ページ参照

#### ■生徒指導に対する基本的な考え方

##### ○生徒指導の意義

問題行動に対する特別指導だけが生徒指導ではない。

生徒指導は日々の学校生活において、教科活動、特別活動などすべての場面において日常的に行うものとして、到達目標を具体的に設定し、すべての教員が指導方針や基準などについて共通理解を図った上で計画的に指導している。

『生徒指導提要』第1章  
生徒指導の意義と原理

「自己指導能力をはぐくんでいくのは、学習指導の場を含む、学校生活のあらゆる場や機会です。授業や休み時間、放課後、部活動や地域における体験活動の場においても、生徒指導を行うことが必要です。」

釜利谷高校  
「生徒指導リーフレット」

「普段から、当たり前のように行っている生徒への働きかけのほとんどは、十分に自覚されていないだけで、実は生徒指導」につながっている。

# クリエイティブスクールとしての実践1

## SSE (Social Skill Education)

### 「人間関係づくりから社会性や規範意識を高める」取組み

SSEとは、様々な集団活動を通して、楽しみながら望ましい対人関係をつくることにより、互いに信頼し合える明るい学校生活が送れるようにサポートする実践である。

釜利谷高校では、総合的な学習の時間を中心にSSEを平成21年度から実施している。

\*3年間で12回のプログラムを実施し、「10のスキル」を学ぶ。

「WHOのライフスキル理論」を参考にした  
釜利谷高校10のライフスキル

- ①自己理解 ②共感性 ③人間関係
- ④コミュニケーション ⑤批判的思考
- ⑥創造的思考 ⑦意志決定 ⑧問題解決
- ⑨ストレス対処 ⑩感情対処



ライフスキルを習得し、日常生活に適用することで、自己有用感、自己信頼感、自尊感情の獲得につながる。

#### ○問題行動の未然防止に向けた取組み

人間関係を円滑にするための様々な取組みを問題行動の未然防止につなげる。

#### ○ワークシート

資料1～3参照

10のスキルのうち、コミュニケーション力を高めることを目的とした授業で使用した資料

「WHOのライフスキル理論」をベースに釜利谷高校のニーズに合わせて作成したプログラムにより年間計画を立て、担任が授業を行う。

感情を制御するスキル、他人との関係を良好に保てるスキルや自立して問題を解決していくスキルなどを高めることを目的とした学習である。この取組みによりコミュニケーション能力の向上や、より良い人間関係を築く力を養うとともに、社会規範に対する意識を高めていこうとしている。つまり、人間関係を円滑にする力、コミュニケーション力を向上させる力を身に付けさせるだけではなく、問題行動の未然防止にもつなげることを意図している。

プログラムやワークシートは、神奈川県立保健福祉大学の指導のもと、SCマップ（臨床心理士のグループ）の協力を得て、釜利谷高校の生徒の実態や課題に適したものを作成した。

次にあげる資料はその具体例であり、このようなワークシートを活用して生徒に考えさせる時間を設けている。学んだことを日常生活へ自覚的に応用させ、さらにライフスキルを伸張させることを考えている。

資料1 10のスキルのうち、コミュニケーション力を高めることを目的とした授業で使用した資料

### 「コミュニケーション力を伸ばそう」

ことばや身振りをまじえて相手に自分の気持ちや考えなどを表現することで、コミュニケーション力を身に付けます。

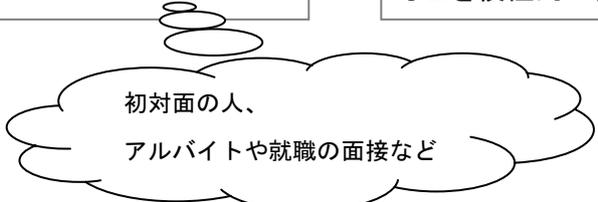
#### はじめに

お互いのことをよく知っている人とのコミュニケーション

日頃から関わりがあるため、ていねいに自分の気持ちや意見を伝えなくても察してくれる。

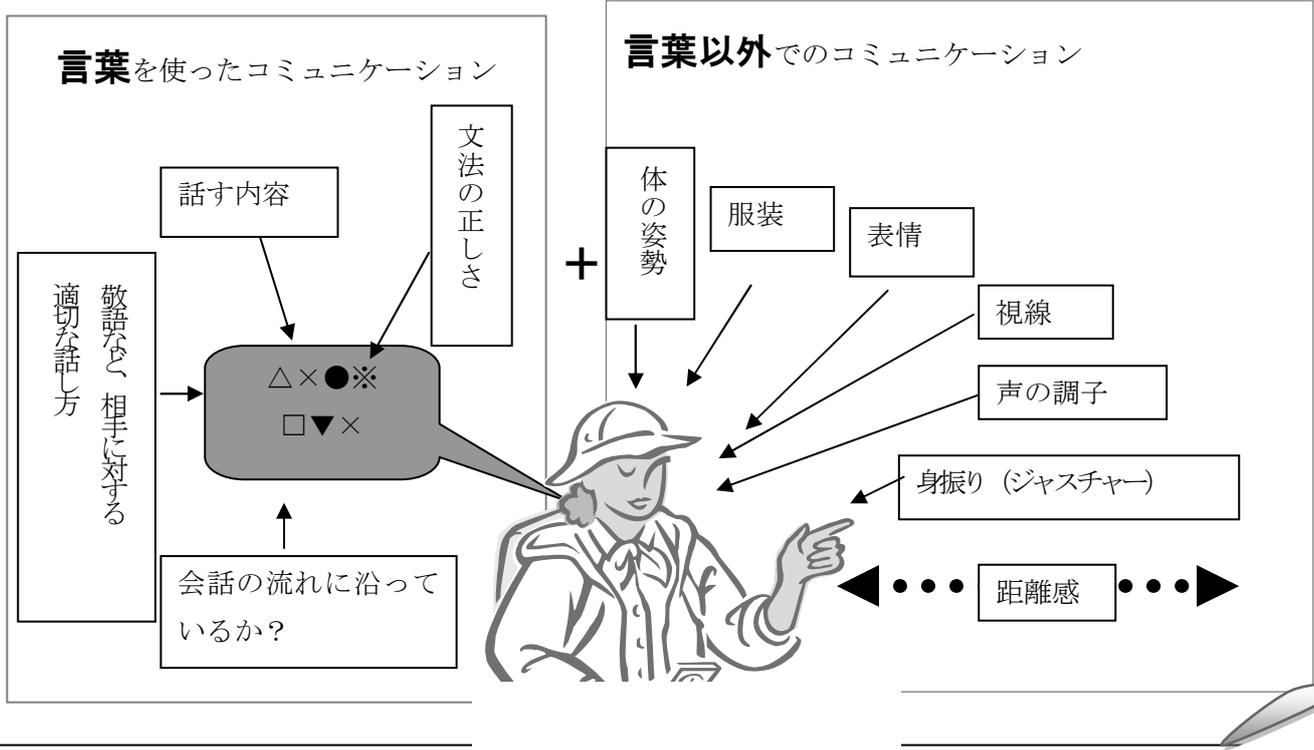
お互いのことをあまりよく知らない人とのコミュニケーション

日頃から関わりがないため、自分の気持ちや意見などを積極的に表現する必要がある。



#### 1. コミュニケーションとは？

### コミュニケーション



## 2. 言葉以外でのコミュニケーション方法

### (1) 表情

- その場の状況に合った表情（例：叱られている時にニヤニヤしない）
- 初対面の人に\_\_\_\_\_で接すると、安心感を与える。

### (2) 身体の姿勢

- おへそが相手に向くように話すと、しっかり相手に向き合っている感じを与える。
- \_\_\_\_\_の姿勢で話すと、相手に関心を持っている感じを与える。
- ふんぞりかえった姿勢は、えらそうな感じを与える。

### (3) 声の調子

- その場に合った声の大きさ（例：電車やバスなど公共の場では、声の大きさは控えめに）
- 相手がわかりやすいように話すスピード

### (4) 視線

- 相手の顔を見て話す。時々、\_\_\_\_\_を見て話すも自然。
- 日本人は相手の目をじっと見つめ過ぎると、自分は落ち着かなくなる傾向がある。

### (5) 服装

- 相手に与える第一印象が影響される。髪型や髪色、化粧、アクセサリなど。

### (6) ジェスチャー（身振り）

- 手や腕を自由に\_\_\_\_\_話すと、一生懸命伝えようとしている感じを与える。
- 腕組みや足組みはえらそうな感じがする。

### エクササイズ「初対面で好印象を与えるには」

①アルバイトの面接で、好印象を与えるには、どういった工夫ができるか考えよう。

<ul style="list-style-type: none"><li>・</li><li>・</li><li>・</li><li>・</li></ul>
---

②クラスの中で発表し合う。

### ポイント

- ・初対面では、自分の内面を相手が知らないため、言葉以外のコミュニケーションが強く働く
- ・見知らぬ人と会う場合、どのような印象を相手に与えたいかを考え非言語的な側面を意識してみる

資料③ 10のスキルのうち、コミュニケーション力を高めることを目的とした授業で使用した資料

### 3. 自分のコミュニケーションのクセを知ろう

- (1) 3人1組になって、「A. 質問する人」「B. 話す人」「C. 観察する人」を決める。
- (2) 1分間、インタビューする。
- A. 質問する人・・・就職や受験の面接官の役をやる。いくつ質問してもいいので、1分間、Bさんに質問する。（「質問例」を参考に）
  - B. 話す人・・・Aさんを面接官だと思って、質問に答える。（言葉以外のコミュニケーションに気を付けながら）
  - C. 観察する人・・・Bさんを観察する。Bさんの良かったところを、「観察するポイント」にメモ。
- (3) インタビューが終わったら、Cさんは観察したことを伝える。
- (4) A, B, Cの役を交代して、同じことをくり返す。（全部で3回やる）

#### 質問例

- ・家から学校までの行き方を教えてください。
- ・作れる料理の手順を教えてください。
- ・朝起きて、家を出るまでにすることを教えてください。
- ・現在、興味があることは何ですか？
- ・現在、はまっていることは何ですか？
- ・もし、ペットを飼うとしたら、どんな動物を飼いますか？その理由も教えてください。
- ・あなたのクセは何ですか？
- ・高校生でよかったこと・楽しかったことは、何ですか？
- ・あなたが20歳になった時、どんな生活をしていると思いますか？ など

#### 観察するポイント(良かったところ)

☑	チェック項目	メ	モ
☐	表 情		
☐	姿 勢		
☐	声の調子		
☐	視 線		
☐	服 装		
☐	身 振 り		

## 釜利谷高校 クリエイティブスクールとしての実践2

### 准担任制

～生徒を育てながら、若手教員も育つ仕掛けづくり～

副担任以上の役割を担う准担任。

より細やかなホームルーム経営を目指す制度が、若手教員の育成にもつながる

#### ■概要

1学年は、担任とともに各クラスに一人ずつ准担任を配置する。准担任は、担任と同様にクラスに関わる。週6時間、総合学習や学校設定科目の指導を始め、学校行事、SHR、面談（個人面談・保護者面談）等を担任と准担任で行う。

総合的な学習の時間	1単位
チャレンジ&ベーシック	4単位
LHR	1単位

※「チャレンジ&ベーシック」とは？

言語能力を鍛え、日本漢字能力検定にチャレンジしたり、中学校までの基礎基本の学習や高校での学習方法を学んだりする科目のこと。

#### ■准担任制の効果

生徒にとって	<ul style="list-style-type: none"><li>・二人の「担任」でクラスを経営することにより、きめ細かく指導を受けることができる。</li><li>・二人の「担任」のうち、生徒が話しやすく思う教員を選んで相談できる。</li></ul>
教員にとって	<ul style="list-style-type: none"><li>・担任と准担任がクラスの生徒について同じ情報を共有し、常に相談をしながらホームルーム経営ができる。</li><li>・初任者や若手教員が准担任になった場合、ホームルーム経営について1年間実際に学ぶことができる。</li></ul>

#### ■若手教員育成をねらった人材育成の取組み

准担任制の本来のねらいは、担任の二人配置により、きめ細かな生徒指導・学習指導を行うことにある。また、准担任は担任とほぼ同じ情報を共有するため、状況に応じて生徒が相談相手を二人の中から選ぶことができる。これが、相談を円滑にするうえで効果を発揮していると考えている。

#### 釜利谷高校の人材育成

注目すべきは、この取組みが、人材の育成にも効果を発揮していることです。翌年、担任となる教員は、1年間の担任としての体験を経ることとなり、これが直接的に次年度に向けての準備となっています。さらに、担任となる者にとっては、准担任がいることにより一人で悩みを抱えるリスクも減らせます。この制度は、経験の浅い教員にとって効果的なOJTの場ともなっているのです。





## 組織的な生徒指導に向けた実践 若手教員による若手教員のための「校内研修」

### ファースト・キャリア・ステージ研修会

#### ■概要

対 象：若手教員  
 ※希望者は任意で参加  
 テーマ：「生徒支援」  
 「キャリア教育」  
 「ホームルーム経営」等  
 回 数：年間4回実施予定

#### ■効果

- 1 経験豊かな教員の話聞くことで、課題解決力の向上につながる。
- 2 主催する若手教員自身の、次世代リーダーとしてのスキルアップにつながる。
- 3 日常的に教員同士が相談する雰囲気醸成し、教員間の連携が深まる。



#### ■研修会の企画

この校内研修は、採用5年以内の教員による相互研鑽の場である。平成24年度から始まったこの研修は、まさに「若手教員による、若手教員のための研修」であった。

#### ・資料4参照

採用3年～4年目が中心となって研修会を立ち上げて、年4回の予定で実施している。初任者の指導教員やベテラン教員も任意に参加している。これは校長やグループリーダーの提唱により企画したものではなく、若手教員が必要を感じて自発的に立ち上げた研修会である。生徒支援、キャリア教育、ホームルーム経営 等、若手自身が実際のクラスや生徒指導をする中で抱えている課題を率直に語り合う会とするよう配慮している。

#### ■研修後の実感

・新たな気付き  
 64～65 参照

研修会のテーマに基づき、パネリストは10分程度で発表し、提起された課題などを中心に協議を行っている。初任者だけでなくベテラン教員も含め参加者全員が新たな視点や気づきなど、得るものを実感する相互研鑽の場となっている。

・職員室内の会話の  
 活性化

准担任制とは違い、開催の意思があれば、簡易な手続きだけで速やかに実現できる取組みである。この自主研修により、職員室で教員同士が日常的に相談しあえる雰囲気を高めることができた。今までは、何かのきっかけがないと話しにくく感じていた話でも、研修会の雰囲気の延長のような印象で、若手教員がベテラン教員と職員室内でも率直に話す機会が増えたと感じている。

## ファースト・キャリア・ステージ研修会

### ◎趣旨

採用5年以内の教員による相互研鑽のために研修会を行う。

### ◎対象者

採用5年以内の教員・初任者研修指導教員・希望者

### ◎年間計画

第一回 1学期中間試験期間  
「釜利谷高校を紹介してみよう」

第二回 夏休み後半  
「生徒支援」

第三回 2学期  
「キャリア教育」

第四回 3学期  
「ホームルーム経営」

\*各回とも1時間程度とする。



ファースト・キャリア・ステージ研修会

### ◎第一回内容

#### 1. 初任者による発表

初任者3名によるプレゼンテーション  
テーマ「釜利谷高校を紹介してみよう」  
\*発表時間は10分程度とする。

#### 2. 研究協議

初任者による発表を踏まえ、参加者全員による協議を行う。



## 自分の指導を振り返る仕掛けづくり

～総合教育センターより 校内研修に参加して～

### 「生徒同士の人間関係づくりが、学校の実践力も高める」

釜利谷高校では、SSEにより習得したスキルを日常生活で適用し、自己有用感、自己信頼感、自尊感情を生徒にもたせることで、社会的に自立できる力を育てたり、社会的な規範を身に付けたりすることなどを考えています。また、この取組みは指導する教員側にとって、生徒を評価する視点を増やすという効果もあるようです。新たな視点を得ることで、今まで見逃してきた日常のさりげない生徒の行動を教員が大切に見る機会を増やし、さらに生徒の積極的な行動を動機付けることにつなげているということです。この新たな視点を養う取組みは、今年度実施した釜利谷高校での校内研修においても基盤として重視し、実施され、教員の意識の変革においても効果を発揮したとを感じる場面がありました。

### 「自分の原体験を理想化していたのではないか？」

62 ページで紹介した「ファースト・キャリア・ステージ研修会」に、総合教育センターの指導主事も参加しました。第2回の「生徒支援」をテーマとした研修会の時、ある若手教員が自分の今までの生徒指導に対する考え方に疑問を感じ、次のような発言をする場面がありました。

「今まで生徒会活動などは、生徒の自主性を重んじて教員が特に指導をする必要はないと考えていました。自分が高校生のとき、教師から指導を受けられずに困ったという経験もありませんでした。でも、今日、学校行事を通して生徒の自主性や社会性を育むために生徒会担当がいろいろと工夫を凝らしながら努力をしているという発表を聞き、自分自身も生徒指導に深くかかわっていかなければならないと思うようになりました。」

### 「あの時の、自分の指導は正しかったのか？」

平成24年度に、釜利谷高校で実践した組織的な生徒指導を目指した三つの取組みに共通するねらいは、生徒一人ひとりの内面に教員が深くかわり、個々の発達を支えることにあります。そして、良好な人間関係を築くこれらの取組みが、生徒だけではなく指導する側の若手教員を育て、また若手教員らが自主的に学ぼうとする意欲を喚起させることにつながっています。

第3回の「キャリア教育」をテーマにした研修会の時に、初めて卒業生を送り出したある教員の体験談が語られました。

「生徒を立派に社会へ出してあげたい」という気持ちを抱き、1年生の担任になったときから、情熱をもって指導に取り組まれた発表者の経験談を聞くうちに、参加者の一人であるベテラン教員から、進路が未定のまま卒業した二人のうち「フリーター」で生計を立てている生徒に関する質問が寄せられました。

「服装や挨拶などのマナーを身につけさせる指導、LHRでの作文指導、『個人カード』を作成し、自分自身の変化や成長を客観的に感じさせる指導など、担任として取り組みました。『自分が社長であったら、雇いたいと思える人になるにはどのような力を身に付けなければならないか』という投げかけを生徒にしなから、社会へ出ていくために必要と考える基本的な資質を高める指導をした結果、二人を除き進路が決定しました。担任として、初めて進路指導をしましたが、ベテランの方からアドバイスをもらったので、特に困るという経験もありませんでした…。」

かたくなにフリーターを志望し、担任の指導にも背を向けていた生徒ではあったものの、「それが生徒自身にとって本当の希望であったのか」というベテラン教員の問いかけに意表を突かれる形となり、しばらく発表者は沈黙しました。そして、経験豊かな参加者からの質問を真摯に受け止め、改めて振り返ってみた結果、「もしかしたら気づかなかった部分、もう少し指導すべき余地があったのかもしれない」と発表者が思わず漏らしました。この自省のことは、その場にいた全員が生徒指導の難しさを考えさせられることとなりました。

釜利谷高校の協力を得て実施した校内研修は、若手教員に新たな生徒指導の視点を与えたり、価値観の変容を及ぼしたりするだけでなく、「ベテランが若手を育成する」という意識も醸成し、職場内の意思の疎通や活性化にも資する取組みとなっています。

# 学校のニーズを掘り起こす研修

## 「意図的に探る」ことで課題を発見し、教員全体で共有する取組み

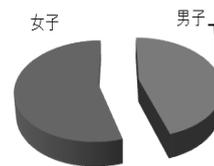
### 学校の概要について

武道教育と国際理解教育を中心にすえた伝統ある学校として多くの卒業生を送り出してきた。今年度春に35期の入学生を迎えた。国際理解教育を推進することで、異国に対する伝統や文化の理解を深める心を育んでいる。体育の授業では、男子全員が剣道、女子全員が居合道を学ぶ。武道教育により、学びの基本的な姿勢を身に付けさせることを目指している。

### ■生徒数（平成24年度）

	1学年	2学年	3学年	合計
男	115	122	110	347
女	161	154	166	481
合計	276	276	276	828

### ■生徒男女比

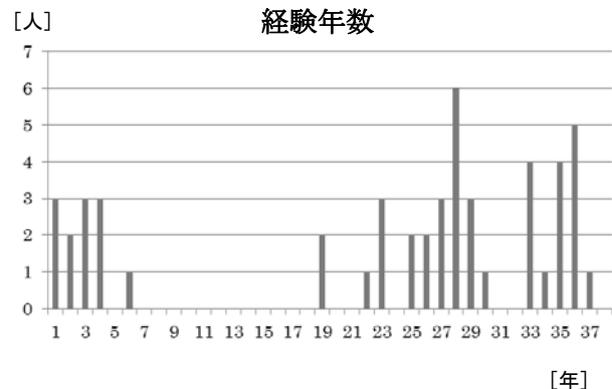
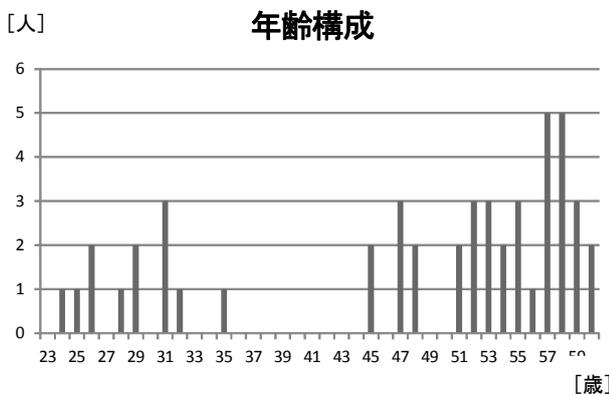


※平成21年度以降、女子の生徒数が男子の倍以上となる傾向が続いています。

### ■橋本高校の生徒指導上の課題意識

- 日ごろより生徒指導で対応に苦慮する場面が少ない。
- 経験の浅い教員は、経験値をはじめ基本的な知識等の不足に不安を感じている。

### 二極化する教員の年齢構成



教員の年齢構成を見ると、50歳代後半の教員と経験の浅い教員の二極分化が顕著である。この両者における生徒指導上の課題意識の違いを感じている。生徒支援グループは、今後、経験の浅い教員とベテランが課題を共有し、連携しながら継続性のある取組みを行う体制をどのように作っていくかが課題と考えている。



## 「若手教員の思い」について考える

～生徒指導を行う上で心がけていること・不安に思うこと～

### (1) 日常（授業時など）

- ・授業時間中は授業規律などを厳しく言って徹底するように努めている。
- ・授業においては、すべての生徒が授業を集中して受けられる環境をつくるために、指導を徹底する。また、生徒の意見を否定しない。
- ・あいさつ、礼儀、時間厳守、整理整頓などの基本的な生活態度全般の指導。
- ・生徒の小さな変化を見逃さないようにする。表情や顔色など見て変化がないかを見る。
- ・できるだけ一人ひとりに声かけをする。時間が許せば生徒の話をじっくり聞く。できるだけ多くの時間を共有する。
- ・授業→面白く、考えさせ、なおかつ進路選択にも役立つ。
- ・部活動では対話を大切にしながら、情熱をもって指導する。



### (2) 特別指導時

- ・まだ、関わったことがないが、やはり一方的ではなくコミュニケーションをとりながら指導していく。
- ・特別指導をしたことがないので、わからない。逆にどのようなことを心掛けるべきなのか研修で学びたい。
- ・生徒の考えや思いをしっかり聞きたい。
- ・生徒の気持ちを考え、愛情をかけて指導したい。
- ・当該の生徒の話をまずじっくり聞く。一人に対応せず複数の先生と対応する。
- ・高校生として守るべきルールがあることをきちんと知らせること。

### 生徒指導担当の思い

・たとえ事案が少なくても、学校に課題がないわけではない。また、生徒指導は、問題行動が発生した時の対応だけではなく、日常の予防的指導や授業、部活動、特別活動、行事等学校生活全体を通して行わなければならない。

・スクールカウンセラーによる相談体制を充実させることは大切だが、生徒の細かな変化を見逃さず、その相談を引き出すことができるのは担任や、教科担当であり、また部活動顧問である。一人ひとりの教師による日常的な取組みが、何よりも重要である。



## 組織的な生徒指導に向けた実践 1

経験10年以下教員を対象にアンケートを実施して、課題を掘り起こす



Q 生徒の状況についてあなたはどのように感じていますか。

### 生徒の状況について

- ・目立った問題行動はなく、比較的落ち着いた生徒が多い。しかし、髪の毛を微妙に染める生徒、授業の態度に問題がある生徒など課題はあると感じる。
- ・勉強も部活動もほどほどに頑張ることができればいいという程度に考えている生徒が見受けられる。伸び代は大きいと思う。
- ・潜在的にいろいろな問題や悩みを抱えている生徒は少なくないと思う。
- ・素直な生徒が多いが主体性がほしい。積極性を引き出すことを意識したい。
- ・生徒指導上の問題は非常に少ない。積極的にあいさつはできるようになるとよい。
- ・積極的に行動する態度を養ったり、日常の挨拶など基本的な生活習慣を身に付けさせたりするとさらによいと思う。

### 若手教員の思い

○生徒に対し、教育活動を通して、基本的な生活習慣や主体性、積極的に物事を考える力を身に付けさせたい。

○一見目立った問題はないように感じられるものの、内面に課題を抱えている生徒がいる。また、その適切な指導の必要性を感じる。



### 掘り起こされた課題

- 基本的な生活習慣が十分に身につけていない生徒がいる。
- 主体的に考える力を身に付けさせる必要がある。
- 内面に課題を抱える生徒がいる。



Q 生徒指導体制についてあなたはどのように感じていますか。

(1)問題行動への対応

(2)教育相談への対応

### (1) 問題行動への対応

- ・生徒指導の教員が中心になって対処しているが、問題の認識等が教員によって曖昧である。服装指導等が完全に機能しているとは思わない。
- ・特別指導の件数が少なく、一部の教員で対処するため、多くの教員は指導に「関わっている」という実感が少ない。
- ・システム化されず、曖昧な体制である。何か大きな問題が起きてしまいそうに感じる。

### (2) 教育相談への対応

- ・全体的に不登校生徒への対応や学習障害、ADHDなどに関する基本的な知識がないのではないか。生徒の行動をよく見れば潜在的に問題を抱えた生徒はもっと多い。
- ・生徒が個別に担任やカウンセラーの所に行くことで成り立っているように思う。こちらから動く場合は個人差が激しい。
- ・他のクラスや生徒の状況はあまりよくわからない。

### 若手教員の思い

- 生徒指導体制が構築されて来てはいるものの、全体の印象としては、やや対症的な対応で、学校全体として統一的な指導ができていないのではないか。
- 生徒指導担当者以外の教員に情報が伝わりにくい状況を改善する必要性を感じる。

- 教員と生徒との日常のコミュニケーションが少ないので改善する必要がある。
- 担任として生徒に向き合う上で、教育相談に係る専門的な知識が指導に必要である。
- 学年内で生徒の情報や意見の交換はしているが、実際の指導の場面で、機能するか不安がある。



### 掘り起こされた課題

- 指導の統一性に欠けている
- 若手とベテラン教員との間に課題の捉えの差がある。

### 掘り起こされた課題

- 生徒とのコミュニケーションが不足している。
- 教育相談の専門的な知識が不足している。
- 内面に課題を抱える生徒がいる。

## 組織的な生徒指導に向けた実践 2

経験10年以下教員を対象にアンケートを実施して、課題を掘り起こす



Q 生徒指導に係るアンケートを実施します。次の項目について教えてください。

Q1 生徒指導の今日的な課題について、特に関心のあるものを選んでください。  
(※複数回答可)

- インターネット・携帯電話の不適切な使用   いじめ   不登校   うつ病・自殺  
暴力行為   性に関する課題   自傷行為   摂食障害   スクールセクハラ  
飲酒・喫煙   薬物の乱用   窃盗   恐喝   中途退学   虐待

Q2 教育相談に関する実践力を身に付ける上で、特に関心のあるものを選んでください。  
(※複数回答可)

- 面接の仕方   青年期の心理の理解   発達障害の理解   教育相談の手法  
その他

Q3 あなたは生徒指導の知識や指導力を身に付けるために、どこから学びを得ていますか。(※複数回答可)

- 同僚(先輩教員を含む)   管理職   校内研修   総合教育センターの研修  
雑誌や書籍   学校外部   特になし

Q4 生徒指導(相談も含む)に係る校内研修が実践に役立っていると感じるものを選んでください。(※複数回答可)

- 学習指導   学級経営   問題行動への対応   個別面談   教育相談  
発達障害等   部活動・委員会活動   その他   特になし

### 生徒指導担当によるアンケートの分析

- ・いじめ、不登校、自傷行為などに関する課題意識が強い。
- ・面接の仕方や青少年の心理の理解について、実践力を身に付けたいと考えている。
- ・同僚や先輩教員、管理職からの助言によって生徒指導の知識や指導力などを身に付けていこうとしている。
- ・校内研修が、実践にあまり役立っているという意識がない。





Q 校内研修を実施する際、テーマとして扱って欲しい事例をあげてください。

- ・青年期の心理状況 ・いじめ ・発達障害 ・意欲のない生徒などに対する支援
- ・インターネットや携帯を用いたいじめの対応策
- ・不登校気味の生徒への対応の仕方
- ・教員と生徒との距離感 ・面談や面接 ・不登校、孤立生徒への対応
- ・問題行動に対してどう対応するか ・インターネット、携帯電話の不適切な使用

### 若手教員の思い

- ・生徒が普段どのようなことを考えて生活しているのか知りたい。
- ・最近のいじめの内容を知りたい。
- ・実際、自分が担当するクラスに指導が必要と考える生徒がいる。
- ・自分自身経験不足だから。知識がなさすぎると思う

## 新たな課題解決のための校内研修づくりへ

### ■若手教員の課題意識

経験の浅い教員の思いに共通するのは、基本的な生活習慣や生活態度に課題を感じていること、生徒指導には個々の生徒が抱える問題の理解が不可欠であり、共感的な態度に基づく教育相談的な配慮が必要であること、日常のきめ細かなケアが問題の未然防止に効果的であることを認識していることなどである。

### ・アンケート 68～70 参照

また、特別指導に関しては、指導の件数が少ないために未経験者が多いが、今後の教員生活を考える上で、指導技術や教育相談の知識を身に付けることが必要であると考えている。また、表面的な問題は少なくとも、生徒が抱える潜在的な課題が少なからずあることを感じるため、知識や指導力の向上に先輩教員を頼りにしていたり、研修を行うことで課題解決のための力量を向上させたいと考えていたりすることがわかった。

### ■ニーズを踏まえた 研修の実施 72～73 参照

意識調査の結果を踏まえて、以前の指導体制を省みた結果、生徒支援グループとして計画的に経験の浅い教員の育成をすることで、全職員が生徒の社会的な資質を高め、自己指導能力を育むことにつなげる取組みを行うことを決めた。

### ■研修テーマの検討

若手へのアンケート調査を実施し、生徒指導に係る課題解決力を向上させるための取組みの具体を検討した。

## 学校のニーズに即した校内研修の実施

### 生徒指導に係る校内研修の実施

アンケートでは、橋本高校の現在の状況を反映して、暴力行為などには関心が少なかった反面、インターネットや携帯電話のルールやマナーを守ること、サイトへの不適切なアクセスに起因する個人情報の流出、不法行為、いじめ・中傷などへの関心が強いことがわかった。また、校内研修のテーマとしていじめ、不登校、青年心理の理解なども多くあげられたことなどを総合的に考えて、生徒理解にテーマを絞り、スクールカウンセラーを講師として校内研修会を行うことにした。

日 時：平成25年1月9日（水）15:50～17:00

場 所：会議室

内 容：講義「高校生の多面的理解と支援」

- ・心の理解の視点
- ・青年期の心の特徴
- ・青年期の心の不調

講 師：橋本高校スクールカウンセラー

参加者：23名（経験年数10年以下+希望者）



#### ■当日の研修風景

若手教員を対象とした研修に多くのベテランが参加し、意見交換を行った。

この研修会は、試行として経験年数10年以下の教員を対象に企画したが、経験豊かな教員の意見も交流させることが望ましいとする意見も勘案し、経験年数が11年以上の教員にも任意に参加するよう呼びかけた。当日は、結果として予想以上に多くのベテラン教員の参加が得られた。生徒の内面の理解については、ベテラン教員も最近の生徒たちの変化、特に個々の生徒が抱える問題が多様化していることに不安を感じていたことの現れでもあった。

### 校内研修を終えて～明日からの新たな実践

研修後のアンケートには、ベテラン教員を含む参加者から次のような感想が寄せられた。

#### ■研修の成果

- ・知識の再認識に役立った。
- ・傾聴の大切さを改めて思った。
- ・新たな知識の習得となった。
- ・不登校の対応は初期対応の大切さとスピードが重要。
- ・具体的事例が聞けたことはよかったが、もっと多くの事例と対処法について学びたい。

時間の制約もあり、具体的な事例紹介や事例演習を多くは扱えなかったが、基本的な知識に関する職員の理解は深まった。この研修によって、多角的な視点による共感的な生徒理解、これに基づく教育相談的な配慮の重要性、組織的な対応の必要性について学びを深めることができた。そして、明日からの実践として次のような点に留意をしながら指導を改善することを確かめた。

- 明日からの実践
  - 多面的生徒理解に心掛け、生徒の言い分をできる限り聞く。
  - 日々の生徒観察を更にしっかりする。
  - 発達障害の疑いのある生徒が一定数教室にいるということを常に頭においておく。
  - 頭ごなしに怒ったりしないで「なぜ、そういう行動をしてしまうのか?」「何が、その障害になっているのか」をよく考えたい。
  - 不登校の対処はスピーディーに。初期段階での対応が必要となる話を役立てたい。

研修後のアンケートには、次回の研修の企画とテーマなどに対する要望も寄せられた。

- 次の研修テーマ
  - 本校の生徒に対する指導をイメージできるような研修を望む。
  - 具体的事例があると分かりやすいので、事例の多い話が聞きたい。
  - 講義形式より議論を通じて様々な理解ができるとよい。他の先生の考え方が知りたい。
  - ロールプレイ方式での実践的研修。
  - 生徒指導が大変な学校における事例と、それに対する学校の取り組みを知りたい。
  - 「いじめ」「体罰」「叱り方」「情報機器との関係」についての研修を希望する。

#### 橋本高校 校内研修担当教員の振り返り



私たちが、必要性を強く感じる研修内容とは、明日の指導に効果が期待できる実践的な研修です。特に経験の浅い教員は、校内で起こりうる具体的な事例にもとづく実践的な内容で、生徒指導上のスキルアップを望んでいます。

講師を立てて行う研修会等の回数は少なくとも、その準備のための意見交換会やアンケートを行うことによって、その学校での課題を把握しなおしたり、他の教員の考えや学校としての取り組みなどを再認識したりする機会になり、今後の指導に役立てることができることを強く実感することになりました。



## 「生徒指導上の課題を可視化する」

～総合教育センターより 校内研修に参加して～

「休み時間ごとに弁当を食べる生徒がいた。この行為の理由を考えてみよう。」

ある事例ですが、人との会話にストレスを感じ、休み時間に弁当を食べ続けることで他人と話さなくてすむ状況を意図的につくっていた生徒がいました。このような生徒をどのように支援したらよいのでしょうか。橋本高校では、このような具体的な事例を用いて、生徒の支援の在り方について意見交換を行うことにより研修を活発にしようと考えています。

### 若手教員が抱える不安



橋本高校マスコット  
キャラクター  
はしもん

教員は教育相談の専門的な知識や技能を必ずしも十分に学んできているわけではありませんが、生徒指導における問題は多様化し、どの教員も教育相談のスキルを身に付けていくことが必要になってきています。こうした点からも、生徒指導力を高めていくことは、教員としての経験や学校の実態に限らず重要なものとなっています。

橋本高校では、生徒たちが、落ち着いて生活しているように見えます。特別指導の事案の件数は少なく、また発生時も担当グループが主に対応し、他の教員が直接関わる場面は多くはありません。それゆえに、生徒指導の知識やノウハウ等、先輩教員からの教えを得る機会が少ないのです。次の赴任校で適切な指導を行うことができるのか、若手教員は不安を感じていました。

生徒支援グループは経験年数等による指導の考え方や生徒の見立ての違いなどを課題としてとらえ、共通理解を図ることが、組織的な指導体制を構築する上で必要と考え、校内研修の実践に向けた働きかけをしました。

## 生徒指導の視点を作る

最近の生徒の内面の変化とそれに伴う諸課題への対応の必要性に関する認識はあるものの、事象として表れる校則違反などの特別指導件数が少ないことから、進んで課題を発見し全体で共有する取組みを実践するまでには十分に至っていなかったのではないかと振り返りが、今回の校内研修実践の出発点にはありました。

そして、総合教育センターが作成した資料を参考に、経験 10 年以下の教員にアンケートを実施することで、生徒指導上の様々な課題意識を掘り起こし、それがすべて教員の課題として共有されていきました。

さらに、若手教員の育成を目的とした研修会を企画することで課題意識を全体で再認識し、組織的な実践力の向上を目指す取組みへと発展させることができました。



## 養護教諭が力を発揮できる体制づくり

今回、橋本高校の校内研修会から感じたことをもう一つ述べておきます。それは、養護教諭が力を発揮できることの重要性です。

橋本高校で行った校内研修が若手を中心とした教員のニーズに応えるとともに、多くのベテラン教員を引き込むほどの力を持つ内容にしたのは、養護教諭の尽力によるところが大きかったのではないかと思います。

養護教諭は、多くの場合各校に 1 名の配置です。生徒だけではなく、担任、管理職、保護者、地域、そして医療機関や学校医など、様々な人や機関とつながりを持つ仕事をしています。養護教諭が十分に力を発揮するためには、職員間のコミュニケーションがより円滑なものとなることが大切であり、そのような職場の体制作りは、より良い生徒指導を行うための大切な取組みの一つと言えるのではないのでしょうか。

# 情報の共有と職場事例を学び合う研修

## 「生徒指導」と「教育相談」が一体となった組織的取組み

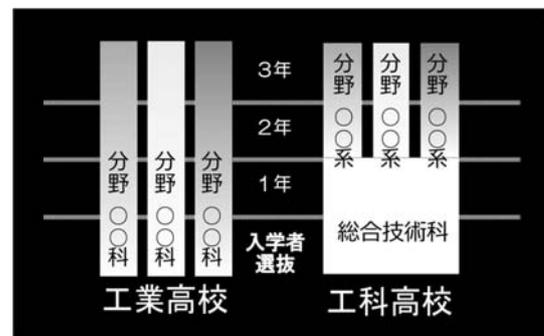
### 学校の概要について

藤沢工科高等学校は、2003年4月に、神奈川県立大船工業技術高等学校と神奈川県立藤沢工業高等学校が統合し、県下初の総合技術高校として開校した新しいタイプの高校である。従来の工業高校とは異なり、電気科や機械科など、各科での募集ではなく総合技術科として募集している。

### ■生徒数(平成24年度 総合技術科)

	1学年	2学年	3学年	合計
男	201	194	175	570
女	35	41	38	114
合計	236	235	213	684

### ■一般の工業高校と工科高校



### 生徒指導体制

- 職場全体で取組む生徒指導体制

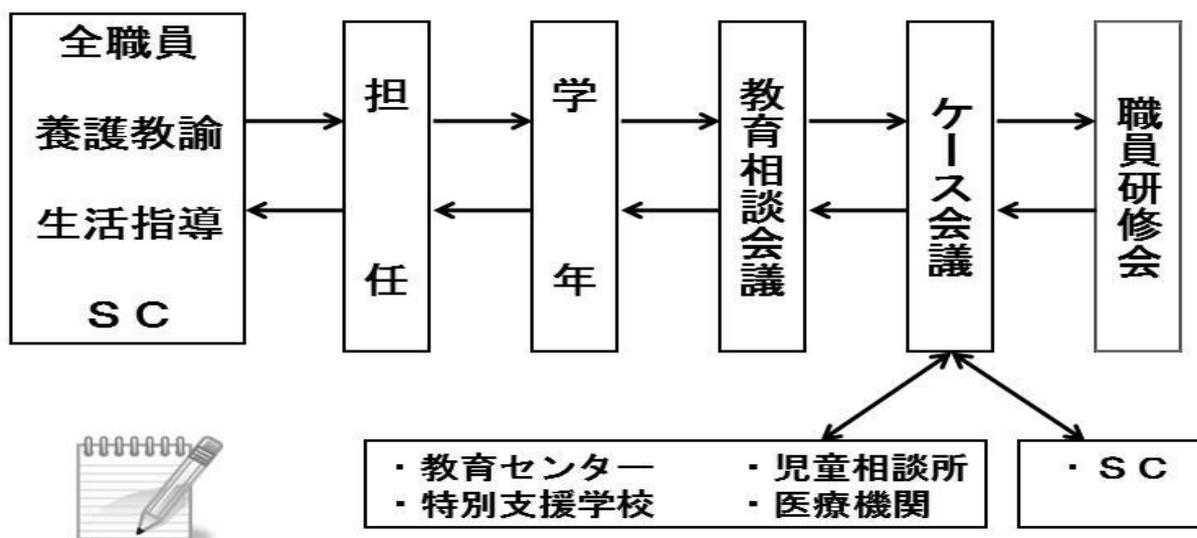
藤沢工科高校では、日頃より基本的な生活習慣の指導や問題行動の未然防止につとめ、指導にあたっては、基本的に全職員で担当している。ただし、特別指導にあたる案件については、初期対応と指導方針検討は生活指導グループと当該担任(状況によっては管理職を含む)で行い、事実確認等、生活指導グループで人員確保できない場合は当該学年団で対応している。また、状況に応じてカウンセリングを取り入れている。

### 教育相談体制

- 生徒指導と教育相談のグループ間連携

校内組織としては、生徒指導と教育相談が別のグループにあるが、それぞれの立場・視点で生徒に関わり、相互に連携し指導内容を工夫して組織的に対応することを心がけている。

支援の必要な生徒に対しては、教育相談会議を中心に情報を共有し、スクールカウンセラーの知見を交え、必要に応じて総合教育センター等の外部機関と連携して対応している。



### 若手教員の課題意識



- 若手教員の不安
- 生徒指導や支援にどう取り組んでよいかわからない

このように、生徒指導と教育相談のシステムが整っている半面、生活指導グループではない若手教員にとっては、指導の実際がよくわからないこと、問題行動を起こす生徒にどのように関わればよいのか不安であるとの意見が、総合教育センター指導主事との話し合いの場で若手教員から寄せられた。

その後、総合教育センターが実施したアンケートにより、教職経験10年以下の教員(17名)が共通して感じていることがまとめられた。その中で特徴的なものは以下のとおりである。

- 発達やコミュニケーションに関わる知識が欲しい

- ・問題行動を起こしたり、家庭環境が大変だったり、様々な病気を抱えている生徒がいる。
- ・丁寧に先生が生徒を支援しており、成長しているように見えるが、自分で考えて行動できない生徒が増えているように思う。
- ・人との関わり方が苦手な(うまく話せない)生徒が多い。
- ・家庭の問題、発達の問題が疑われる生徒がいる。
- ・単に学習意欲の問題なのか、特性によるものなのか見分けが難しい。
- ・声をかけ指導を行うと想定以上に成長する生徒がいる。
- ・生徒同士のトラブルや学習指導上困る事がある。

## 情報の共有と事例を通じた職場全体の学び

### 教育相談会議（年2回、全職員で開催）

#### ■教育相談会議の概要

教育相談会議とは、各クラスの生徒情報を共有し、対応を検討するなど、学校の実態に応じた事例を題材とした実践的な研修会議である。発達障害やカウンセリングに関する理解や、本人・保護者へのカウンセリングの勧め方や発達障害に対しての心のケアの必要性を参加者が理解できるよう試みられている。

また、教育相談担当やスクールカウンセラーを中心とした発達障害やその疑いがある生徒についての対応方法等の説明、外部講師による発達障害についての講話、発達に問題がある生徒が問題行動を起こした過去の事例の検討が行われる。

#### ■教育相談会議のシステム

教育相談会議は、年2回、5月と11月に午後半日日程で全職員が出席して開催される。会議に先立ち、各教科担当者には「教育相談コメント用紙」（資料1）が渡され、任意の気になる生徒の氏名と様子が記入され、担任に集められる。担任は「教育相談コメント用紙」を参考に教育相談コーディネーターに「教育相談コメント用紙2」（資料2）として生徒状況を提出する。

「教育相談コメント用紙2」の記載については、記載者の過度の負担にならぬよう、簡潔でよいこととしているが、教員によって書き方は様々である。コーディネーターはより簡潔に要点をまとめ、A4サイズで5ページほどに全学年分をまとめる。当初はコーディネーターにとって負担の大きい作業であったが、会議を重ねるにつれ各教員の記載も簡にして要を得たものとなっているとのことである。

## 《研修の実践事例の紹介》



### ① 第1回教育相談会議

5月31日(木)

- ・教育相談担当より、発達障害の可能性のある生徒の情報提供、対応方法等の説明

### ② 発達障害についての研修会

7月26日(木)

- ・外部講師による発達障害についての講話

### ③ 第2回教育相談会議

11月14日(水)

- ・第1回教育相談会議で話題になった生徒の状況報告、新たに教育相談が必要になった生徒の情報提供

### ④ 発達に課題のある生徒が特別指導になったケースの研修会

12月3日(月)

- ・発達に課題がある生徒が問題行動を起こした事例を、生活指導グループと教育相談担当が連携してどのように対処したか解説
- ・発達障害やカウンセリングに関する理解
- ・本人・保護者へのカウンセリングの勧め方や発達障害への心のケアの必要性

## ■情報共有の成果

例えば、リストカットを行う生徒の情報が共有されると、スクールカウンセラーは、発見した教員がどのように対処すべきか全職員に説明する。生活指導グループは、廊下やゴミの中に血痕があった場合、すぐに情報を共有できる体制を作る。その結果、実際に事件が起きた時に、日常は全く当該生徒と面識のない教員が落ち着いて対応した事例も生まれた。

また、いじめかどうか判断しづらい生徒間トラブルについて、情報交換を行う中で、相談的対応よりも特別指導の対象にすることが良いと判断された事例もあった。当事者への自覚と反省を促すためには、特別指導を行って学校の毅然とした姿勢を示し、その上で双方に相談的アプローチをすべきと判断されたのである。

実践報告 3

資料1

■「教育相談コメント用紙」

全職員：◆◆H24教育相談コメント用紙

**教育相談コメント用紙** (5月現在)

科目名		担当者名	
-----	--	------	--

年	組
---	---

授業中や学校生活全般の様子で気になる生徒を教えてください。  
 (全職員に伝えたい情報、欠席が多い、課題や提出物を出さない、授業中に何度もトイレに行く、落ち着きがない、忘れ物や紛失物が特に多い、暴言が多い、TPOをわきまえた発言や行動が特にできない、空間認知が苦手で図形が描けない…など)

番号	氏名	授業中の様子や学校生活で気になるところなど

お忙しいとは思いますが、5月〇日(〇)12時までに各担任に提出してください。よろしくお願いします。

\*教科担当 → 担任 → 生徒支援学年担当 → 打合せ → 担任

資料2

■「教育相談コメント用紙2」

NO.	組	番	氏名	出身中学	系	内容	部活等

## 研修による若手教員の変化

### ■ 新たな気づきと指導方法の変化

研修等により意識や実践の変化について聞き取りをしたところ、次のような意見が寄せられた。

- 発達障害等の知識を学んで、生徒理解がしやすくなった。
- 発達障害についての研修を受けたことで、それまで納得のいかなかった生徒の行動が、理解できるようになった。
- 生徒の“怠け”だと思っていたが、病気や本人の特性、家庭環境から問題を捉える必要があることがわかり、単に叱るのではなく、一人ひとりを見る、把握してから対応するように、指導の仕方を変えるようになった。
- いろいろな生徒がいるということを再認識した。
- 生徒への問いかけの仕方が変化した。
- 頭ごなしに叱らなくなった。



### ■ 研修後の振り返りと成果

研修を終え、若手教員に研修の意義や成果について振り返ってもらったところ、次のような意見が寄せられた。

- 発達障害についての知識を認識するために定期的に実施してほしい。
- 初任者研修では、発達障害や教育相談についての研修を受けているが、時間が経つと認識があいまいになるので、定期的に実施した方が良い。
- 学校の現状が把握できて良い。
- 生徒の情報を共有することの大切さが分かった。
- 教育相談会議に出席して、生徒の状況等を把握することができ、生徒に対して声をかけやすくなった。

教育相談会議そのものは、若手を育てることを主眼とした研修ではなく、職場全体の生徒理解と生徒支援のために行うものである。しかし、ベテラン教員から若手までが同じ職場の課題を検討することにより、若手が自然に自分の指導法を振り返り、学べるような仕組みになっている。このことが、藤沢工科高校の職場研修における若手育成の意義であろう。



## 職場で情報を共有し、若手が学ぶ実践

～教育相談を支える情報共有の在り方とは～

**「皆さんには守秘義務がある。」**

**だから、困っている生徒の情報はどんどん出してください」**

今回、藤沢工科高校の先生方から多くの話を伺った。

藤沢工科高校では組織的な情報共有と具体的対応の確認が定期的に行われているが、こうした体制ができたのもここ数年である。かつては職業高校として、「専門教育を受ける以上この程度はできなければならない」といった要求の厳しさがあり、特定の生徒を特定の先生が「抱え込む」傾向もみられたとのことであった。しかし、そうした熱心な教員が、放課後に生徒と向き合って教える気風も同時に存在していたという。

数年前の出来事として、配慮の必要な生徒の情報を職員会議で伝えた担任に、「そんな個人情報を持ち合わせて言うてよいのですか？」と指摘した教員がいた。その時、当時の校長は、「とんでもない。皆さんには守秘義務がありますよね。これを誰に言うのですか？クラスの生徒の困っている状況はどんどん言ってください」との見解をその場で明確に示した。そのリーダーシップによって、教育相談における情報の扱いの方向性が定まったという。また、こうした姿勢が歴代の校長をはじめ管理職に引き継がれることで、教育相談会議が成立しているとのことであった。

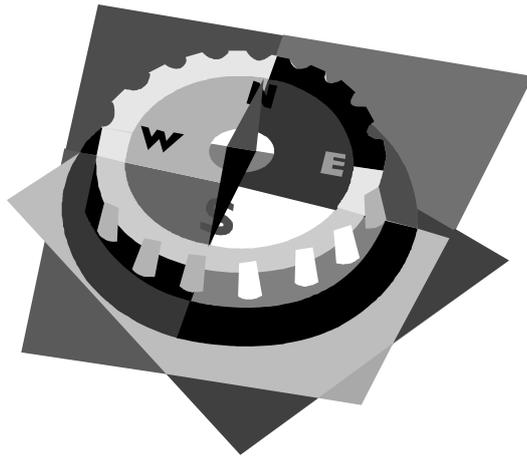
そうした中で、学習面での特別な支援が必要と判断された生徒が、教員のきめ細かい指導や管理職による年度途中の講師加配、外部の相談機関との連携等により、最終的に福祉と連携して就職した事例も生まれた。高等学校で保護者や本人に福祉の援助を勧め、就職につなげることができたのも、教員相互の情報交換、専門機関への情報提供、保護者との信頼関係があったことだという。

また、藤沢工科高校の生徒指導理念と若手の育成について伺ったところ、「ベテランが分かれば若い先生につながる」との事だった。藤沢工科高校においては、若手に特化した独自の研修は行っていない。しかし、事例や情報の共有によって若手教員が自ら成長する様子が見られるという。生徒の課題への気付きについては、ベテランが発見する場合もあるが若手が先に気付くこともある。大事な事は、ベテランと若手が気付きを共有し、生徒の課題や行動の背景を共に探ろうとすることである。



# 第 4 章

## 資 料 編



## 相談機関、各種機関の連絡先

※平成 25 年 3 月 日現在のものです。今後、名称や電話番号が変更される場合があります。

### ●教育相談全般

県立総合教育センター

総合発達相談 0466-81-0185

発達教育相談 0466-84-2210

〔月～金 8:30～21:00 土日祝日 8:30～17:15〕  
\* 年末年始は除く

いじめ110番(24時間受付) 0466-81-8111

eメールによる相談 [soudan@edu-ctr.pref.kanagawa.jp](mailto:soudan@edu-ctr.pref.kanagawa.jp)  
(※返信が数日かかる場合があります。)

### ●青少年相談全般

青少年サポートプラザ 045-242-8201  
(県立青少年センター)

〔火～日 9:00～12:00 13:00～16:00〕  
\* 月曜日、年末年始は除く

### ●非行問題、犯罪被害等についての相談

ユーステレホンコーナー 0120-45-7867  
(県警察少年相談・保護センター) 045-641-0045

〔月～金 8:30～17:15 \* 土日祝日、年末年始は除く〕

FAX 相談 045-641-1975

### ●心の病気やひきこもりについての相談

こころの電話相談 045-821-6060  
(県精神保健福祉センター)

〔月～金 9:00～12:00 13:00～16:00〕  
\* 土日祝日、年末年始は除く

### ●公立高等学校への転・編入学についての相談

転編入学情報センター 045-210-8234～5

〔月～金 8:30～17:15 \* 土日祝日、年末年始は除く〕

※以下の相談機関の区分はあくまで目安であり、同種の相談機関でも異なった対応をしていることがあります。また、相談の曜日や時間については、機関により異なります。以下のホームページ（神奈川県県民局青少年課）も参考にしてください。  
<http://www.pref.kanagawa.jp/osirase/seisyonen/soudanannai/index.html>

● **不登校、不良交友、非行等 青少年問題全般についての相談**

機 関 名	電 話 番 号
横浜市青少年相談センター	045-260-6615
川崎市児童・青少年相談	044-739-8080
ヤングテレホン横須賀	046-826-1177
横須賀市青少年教育相談センター	046-823-3152
平塚市ヤングテレホン相談	0463-33-7830
平塚市青少年相談室	0463-34-7311
鎌倉市教育センター 相談室	0467-24-3386
藤沢市青少年相談	0466-22-1126
藤沢市ヤング悩み相談（子ども専用）	0466-27-7564
小田原市青少年相談センター	0465-23-1481
茅ヶ崎市青少年教育相談室	0467-86-9963
厚木市ヤングテレホン	046-223-6693
厚木市青少年教育相談センター	046-221-8080
大和市ヤングテレホン	046-260-5040
大和市青少年センター青少年相談室	046-261-7830
伊勢原市ヤングテレホン	0463-96-0800
伊勢原市青少年相談室	0463-94-1030
海老名市青少年相談センター	046-234-8700
座間市青少年相談室	046-256-0907
南足柄市青少年育成センター	0465-72-1329
綾瀬市青少年相談室	0467-77-7830
湯河原町青少年相談室	0465-63-6300

● **事故や犯罪についての様々な相談**

機 関 名	電 話 番 号
県警察少年相談・保護センター（横浜第一方面）	045-867-2039
県警察少年相談・保護センター（横浜第二方面）	045-313-1984
県警察少年相談・保護センター（川崎方面）	044-549-8105
県警察少年相談・保護センター（横須賀方面）	046-821-3294
県警察少年相談・保護センター（湘南方面）	0463-23-3146
県警察少年相談・保護センター（県西方面）	0465-32-7358
県警察少年相談・保護センター（県央方面）	046-222-8109

機 関 名	
総合相談室	電 話 番 号
家出人相談	045-664-9110
環境犯罪ホットライン	045-651-4473
子ども安全110番	045-651-1194
交通相談センター	0120-604-415 045-651-0110
悪質商法110番	045-211-2574
電車内痴漢等迷惑行為相談所	045-651-1194
性犯罪被害110番	045-461-0110

### ●薬物についての相談

機 関 名	電 話 番 号
県庁薬務課	045-210-4972
県立精神保健福祉センター心の電話相談室	045-821-6060
県警本部薬物銃器対策課	045-211-1212
関東信越厚生局麻薬取締部横浜分室麻薬・覚醒剤相談	045-201-0770
県立精神医療センターせりがや病院	045-822-0365

### ●こころと体の相談

機 関 名	電 話 番 号
精神科救急医療相談窓口	045-261-7070
横浜市こころの健康相談センター	045-476-5557
川崎市精神保健福祉センター	044-201-3242
川崎市リハビリテーション医療センター 社会参加支援センター 地域ケア	044-755-3891
川崎市川崎区保健福祉センター	044-201-3213
川崎市幸区保健福祉センター	044-556-6654
川崎市中原区保健福祉センター	044-744-3297
川崎市高津区保健福祉センター	044-861-3309
川崎市宮前区保健福祉センター	044-856-3262
川崎市多摩区保健福祉センター	044-935-3299
川崎市麻生区保健福祉センター	044-965-5159
川崎市思春期保健電話相談	044-877-8469
横須賀市中央健康福祉センター	046-824-7632
横須賀市北健康福祉センター	046-861-4118
横須賀市南健康福祉センター	046-836-1511
横須賀市西健康福祉センター	046-856-0719
横須賀市保健所	046-822-4300

機 関 名	電 話 番 号
藤沢市保健所	0466-50-3593
相模原市保健所	042-769-8260
相模原市保健所中央保健センター	042-769-8233
相模原市保健所南保健センター	042-701-7708
相模原市保健所津久井保健センター	042-780-1414

## ●消費生活についての相談

機 関 名	電 話 番 号
県警悪質商法 110番	045-651-1194
多重債務サポートダイヤル	045-312-1881
かながわ中央消費生活センター	045-312-1121
横浜市中心消費生活センター	045-845-6666
川崎市消費者行政センター	044-200-3030
川崎市北部消費者センター	044-812-3336
横須賀市消費生活センター	046-821-1314
平塚市消費生活センター	0463-21-7530
鎌倉市消費生活センター	0467-24-0077
藤沢市消費生活センター	0466-25-1111
西さがみ連邦共和国消費生活センター	0465-33-1777
茅ヶ崎市消費生活センター	0467-82-1111
相模原市北消費生活センター	042-775-1770
相模原消費生活センター	042-776-2511
相模原南消費生活センター	042-749-2175
秦野市消費生活センター	0463-82-5128
厚木市消費生活センター	046-294-5800
南足柄市消費生活センター	0465-71-0163

## ●アルバイトの内容や労働時間などについての相談

機 関 名	電 話 番 号
横浜南労働基準監督署	045-211-7373
鶴見労働基準監督署	045-501-4968
横浜西労働基準監督署	045-892-3141
横浜北労働基準監督署	045-474-1251
川崎南労働基準監督署	044-244-1271
川崎北労働基準監督署	044-820-3181
横須賀労働基準監督署	046-823-0858

機 関 名	電 話 番 号
藤沢労働基準監督署	0466-23-6753
平塚労働基準監督署	0463-32-4600
相模原労働基準監督署	042-752-2051
厚木労働基準監督署	046-228-1331
小田原労働基準監督署	0465-22-7151
横浜労働センター	045-633-6110
川崎労働センター	044-833-3141
横須賀三浦地域県政総合センター労働課	046-823-0210
県央地域県政総合センター労働課	046-224-1111
湘南地域県政総合センター労働課	0463-22-2711
足柄上地域県政総合センター労働課	0465-83-5111
西湘地域県政総合センター労働課	0465-32-8000
県北地域県政総合センター労働課	042-755-1121

### ●いのちの電話

機 関 名	電 話 番 号
川崎いのちの電話	044-733-4343
横浜いのちの電話	045-335-4343

### ●DVについての相談

機 関 名	電 話 番 号
DV相談（かながわ県民センター）	045-313-0745
DV相談（かながわ女性センター）	0466-27-9799

### ●ネット依存についての相談

機 関 名	電 話 番 号
久里浜医療センター ネット依存治療研究部門	046-848-1500

### ●セクハラについての相談

機 関 名	電 話 番 号
スクール・セクハラ相談窓口（県教育委員会）	045-210-8041
神奈川県立かながわ女性センター セクシュアルハラスメント相談	0466-28-2367
スクール・セクシュアル・ハラスメント防止 関東ネットワーク	03-5328-3260

## ● 児童相談所

機 関 名	電 話 番 号
神奈川県中央児童相談所	0466-84-1600
神奈川県鎌倉三浦地域児童相談所	046-823-7050
神奈川県小田原児童相談所	0465-32-8000
神奈川県北地域児童相談所	042-750-0002
神奈川県厚木児童相談所	046-224-1111
横浜市中央児童相談所	045-260-6510
横浜市西部児童相談所	045-331-5471
横浜市南部児童相談所	045-831-4735
横浜市北部児童相談所	045-948-2441
川崎市こども家庭センター	044-542-1234
川崎市中部児童相談所	044-877-8111
川崎市北部児童相談所	044-931-4300
相模原市児童相談所	042-730-3500
横須賀市児童相談所	046-820-2323

## ● 少年院・鑑別所など

機 関 名	電 話 番 号
久里浜少年院	0468-41-2585
小田原少年院	0465-34-8148
横浜少年鑑別所	045-841-2525
横浜保護観察所	045-201-1842
小田原駐在官事務所	0465-22-8590
神奈川医療少年院	042-772-2145

## 引用文献・参考文献

### [引用文献]

文部科学省 2010 『生徒指導提要』 p. 1

### [参考文献]

文部科学省 2009 『高等学校学習指導要領』

文部科学省 2010 『生徒指導提要』

神奈川県教育委員会 2009 『生徒指導研究集録』

尾木和英・有村久春・嶋崎政男 2011 『生徒指導提要を理解する実践する』 学事出版

神奈川県青少年指導者養成協議会 2012 『楽しく進めるグループワーク～個と集団の気づきを  
うながす～』

神奈川県教育委員会 2002 『生徒指導ハンドブック』

神奈川県立総合教育センター 2012 『生徒の自己理解を促す 共感的な対話』

小林昭文 2004 『担任ができるコミュニケーション教育』 ほんの森出版

斎藤清二・西村優紀美・吉永崇史 2010 『発達障害大学生支援への挑戦』 金剛出版

石隈利紀・田村節子 2003 『石隈・田村式援助シートによるチーム援助入門ー学校心理学・実践  
編ー』 図書文化社

神奈川県立総合教育センター 2008 『はじめよう ケース会議 Q&A』

『高等学校 生徒指導 研修ガイドブック』の作成関係者

＜神奈川県立総合教育センター生徒指導プロジェクトチーム＞  
(事務局)

所 属	職 名	氏 名
企画調整部	部長	杉坂 郁子
教育キャリア課	課長	宇田 雅則
教育人材育成課	課長	森本 雄二
教職キャリア課	主幹（兼）指導主事	岡田 彰
教職キャリア課	指導主事	荒井 智子
教育人材育成課	主幹（兼）指導主事	大関 隆夫
教育人材育成課	指導主事	宗方 泰司
教育課題研究課	指導主事	牛島 操
教育相談課	指導主事	小澤 京子

『高等学校 生徒指導 研修ガイドブック』の作成にあたって  
協力していただいた学校・行政機関

＜県立高等学校＞ 3校

釜利谷高等学校
橋本高等学校
藤沢工科高等学校

＜行政機関＞

県教育委員会教育局 支援教育部 学校支援課
-----------------------

高等学校 生徒指導 研修ガイドブック

発 行 平成 25 年 3 月

発行所 神奈川県立総合教育センター

〒251-0871 藤沢市善行 7-1-1

電話 (0466)81-1759 (企画広報課 直通)

ホームページ <http://www.edu-ctr.pref.kanagawa.jp/>

※本冊子については、ホームページで閲覧できます。

再生紙を使用しています



**神奈川県立総合教育センター**

善行庁舎  
〒251-0871 藤沢市善行 7-1-1  
TEL (0466) 81-0188  
FAX (0466) 84-2040

ホームページ <http://www.edu-ctr.pref.kanagawa.jp/>

亀井野庁舎（教育相談センター）  
〒252-0813 藤沢市亀井野 2547-4  
TEL (0466) 81-8521  
FAX (0466) 83-4500

